

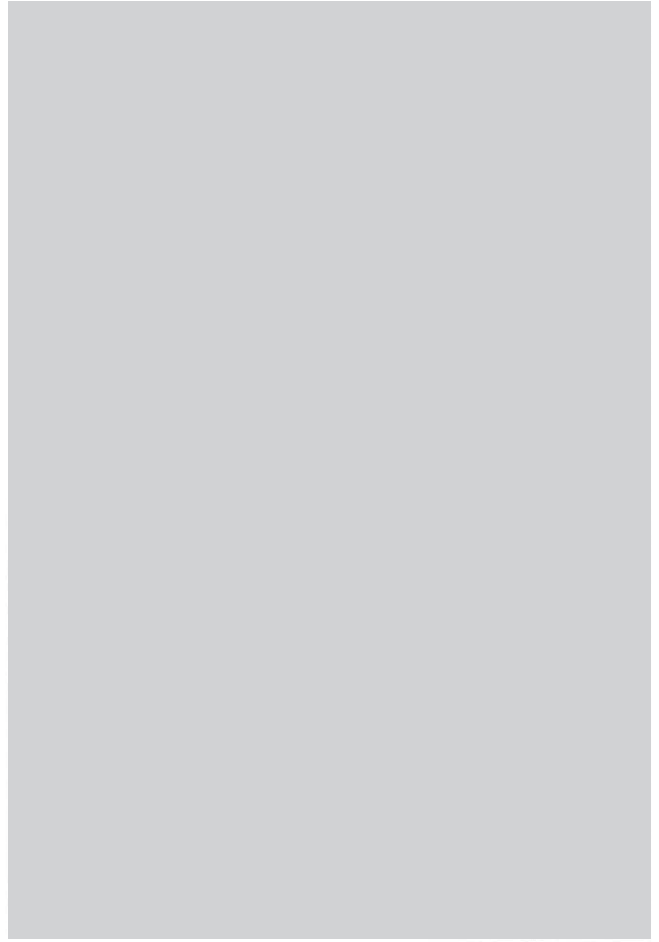
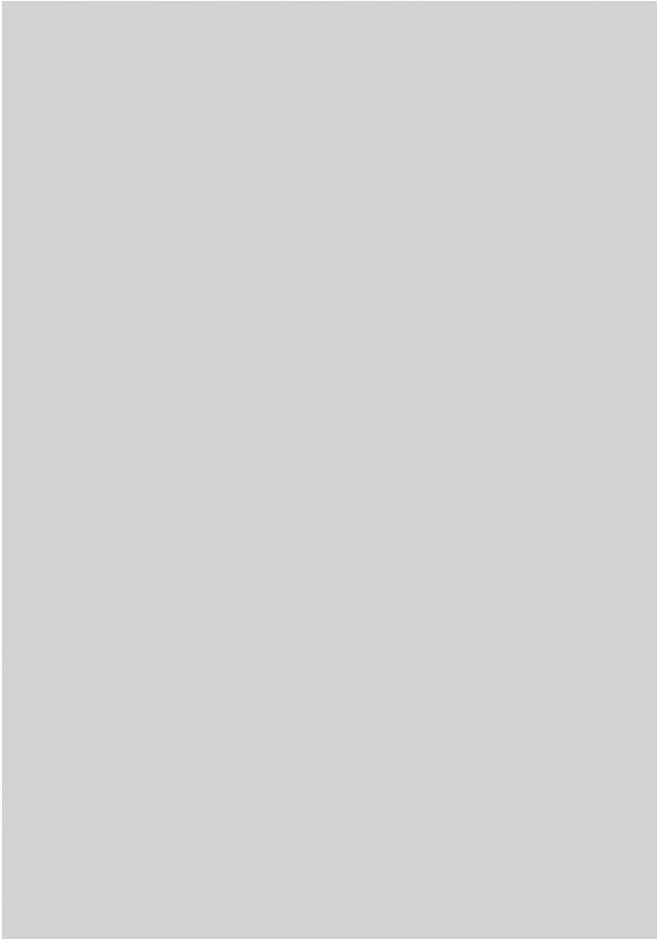
京都社寺調査報告 I

目次

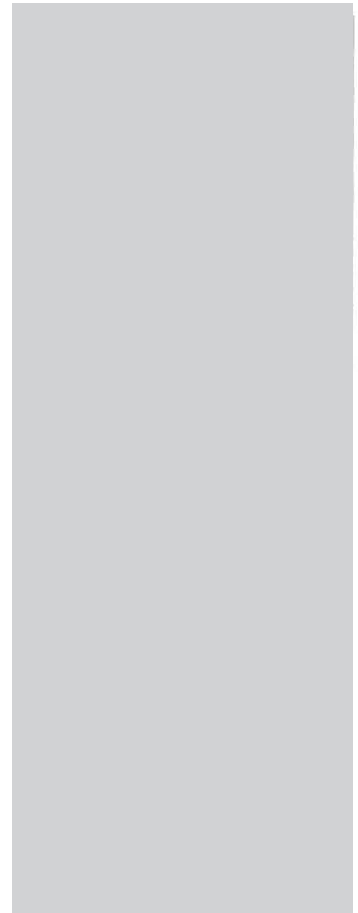
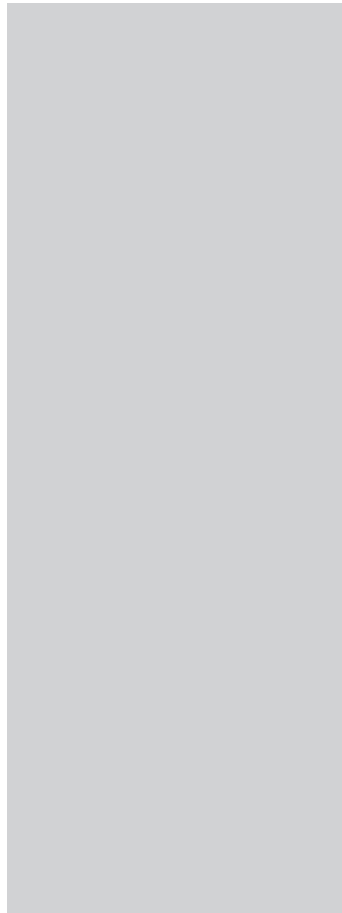
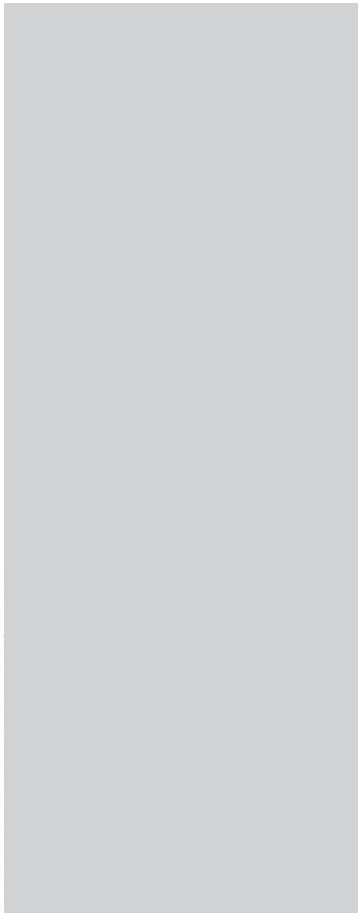
序	凡例	図版	本文	常泰寺	観音寺	念仏寺	宝福寺	勝念寺	源空寺	大黒寺	悟真寺	喜運寺	宝国寺	月橋院	長園寺	高福寺	善福寺	法伝寺	浄禅寺	大蓮寺
				京都市伏見区深草七瀬川町八八六	京都市伏見区竹田内畑町二七八	京都市伏見区納所北城堀二三の一	京都市伏見区西大文字町九六五	京都市伏見区石屋町	京都市伏見区瀬戸物町七四五	京都市伏見区鷹匠町四	京都市伏見区榎町七二三	京都市伏見区鷹匠町三	京都市伏見区榎町七七〇	京都市伏見区桃山町泰長老二二〇	京都市伏見区淀新町六八一	京都市伏見区淀新町六八〇	京都市伏見区下鳥羽上三栖	京都市伏見区下鳥羽三町六一	京都市南区上鳥羽岩ノ本町九三	京都市左京区高倉通仁王門上ル正往寺町四五七の一
				1	2	4	6	7	9	11	12	13	13	14	15	16	16	17	20	22

凡 例

- 一、これは当館が昭和五十四年度から実施した京都社寺調査の、昭和五十四年度分の報告である。
- 一、本調査は毎年地域を定めて行うものである。本年度は京都市伏見区を対象にしたが、これ以外の地域をも適宜行ったので、その報告も含めた。
- 一、調査方法は、『宝物取調書』（明治二十一年）を抄録したと思われる『寺院什器簿』（明治三十年頃）をもとに、可能な範囲で現状確認を行い、注目すべき作品については、詳細な調査と写真撮影を行った。
- 一、本文の組みは、寺名、宗派、現所在地名、明治期の旧地名を記したあと、『寺院什器簿』の記載をそのまま上段に収め、下段に、時代、写真原版の有無、備考を記した。註（①②……）には、調査記事を記した。
- 一、写真原版が当館に蔵されるものは※であらわした。
- 一、材質は特に記さない限り木造。仏像の光背台座の後補・欠失は記述しなかった。
- 一、註に記す参考文献の呼称は次のとおりである。
城南：『城南』城南文化研究会 城南宮 昭和四十二年（社寺関係の執筆は毛利久・近藤豊両氏）
台帳：『京都府寺院重宝調査台帳』京都府教育委員会 昭和十六―二十年（ページは当館にて付したもの）
- 一、調査および報告書作成は井上正、伊東史朗が行い、写真撮影は金井杜男が行った。なお斎藤望、根立研介の両氏には調査、撮影の協力を得た。

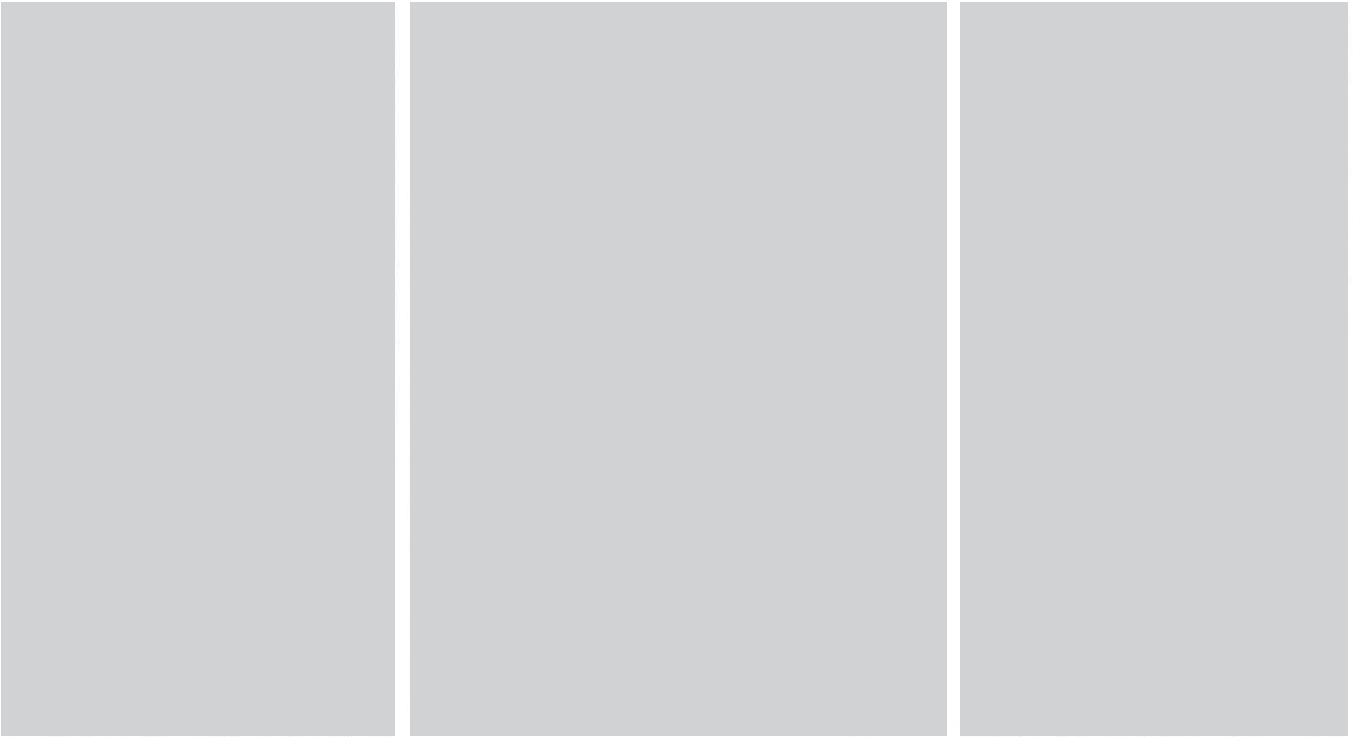


1. 十一面觀音像 常泰寺

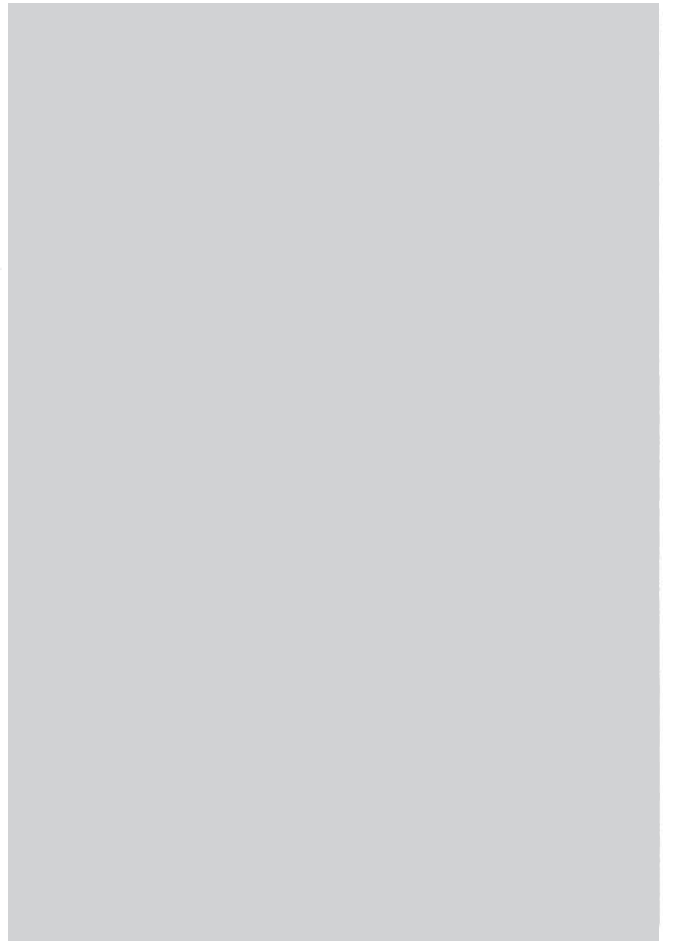
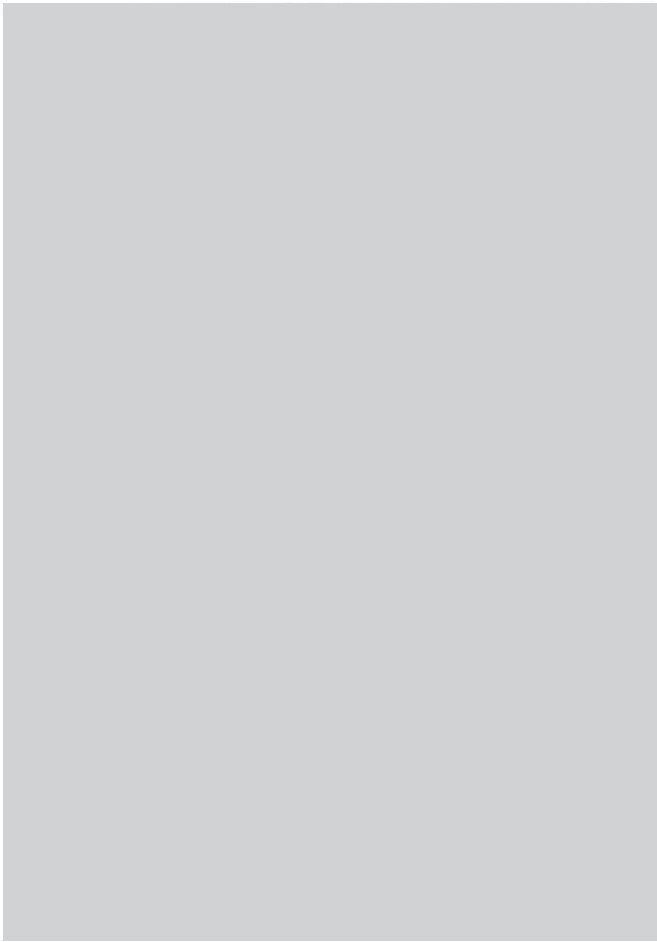


3. 阿彌陀如來立像 觀音寺

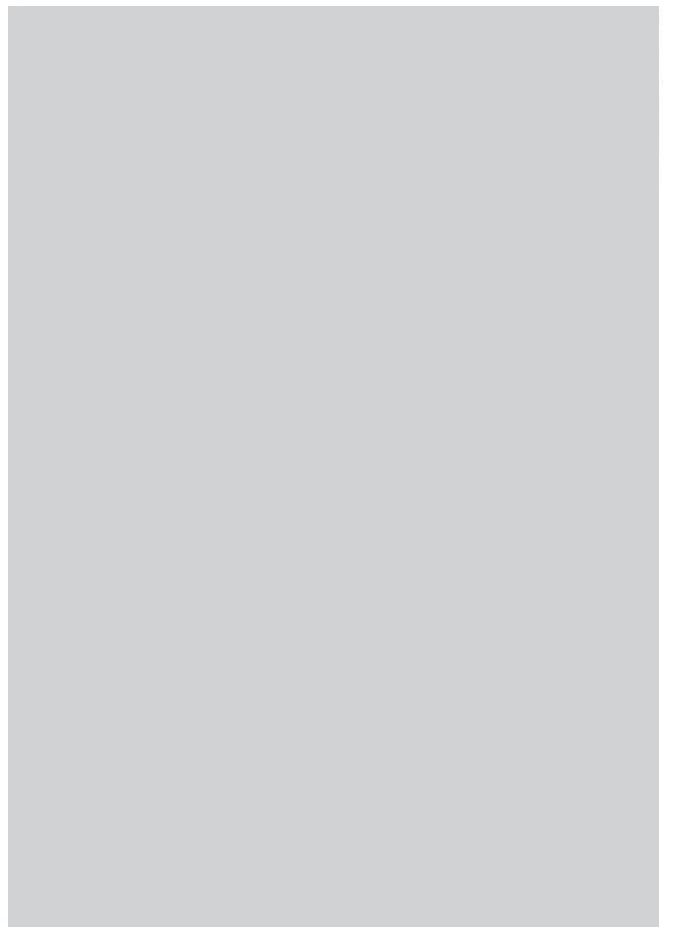
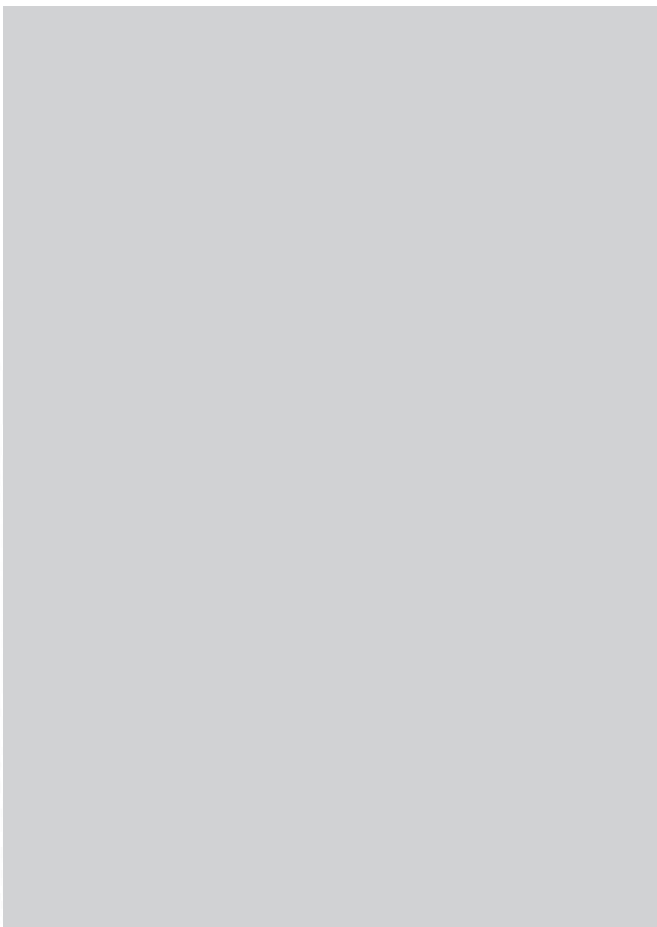
2. 阿彌陀如來立像 觀音寺



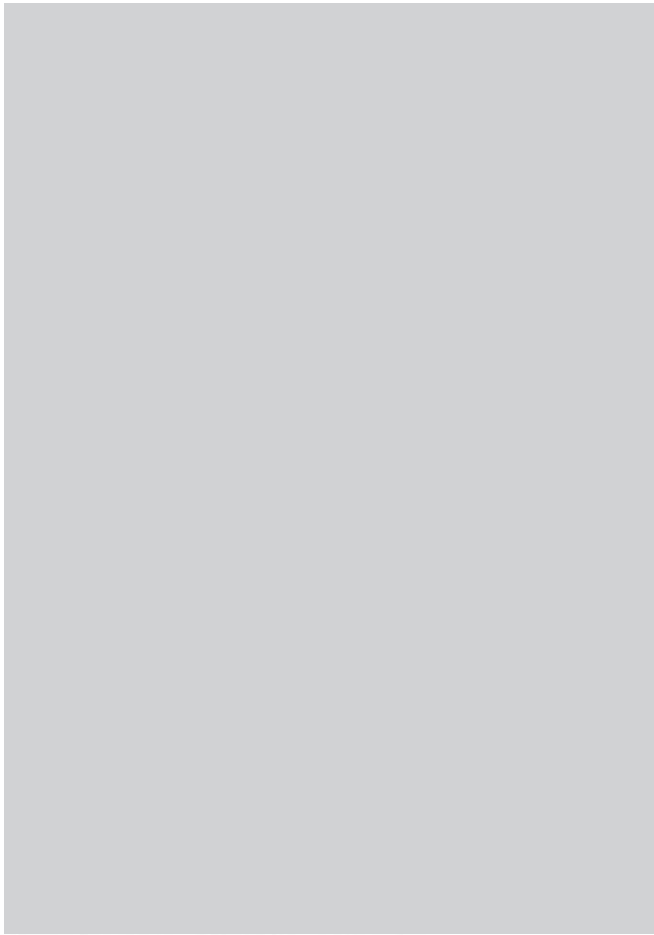
4. 薬師如来三尊像 観音寺



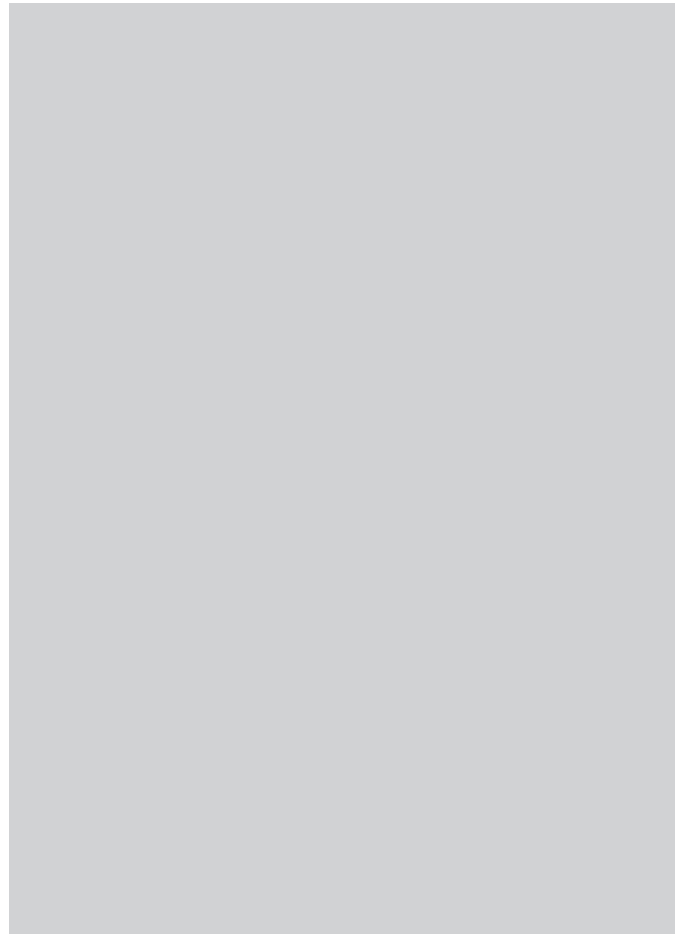
5. 阿弥陀如来立像 念仏寺



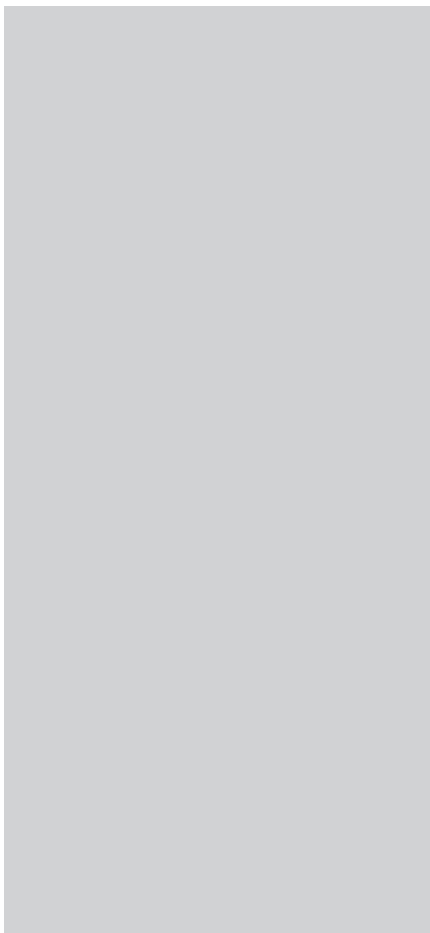
6. 銅造如来倚像 念仏寺



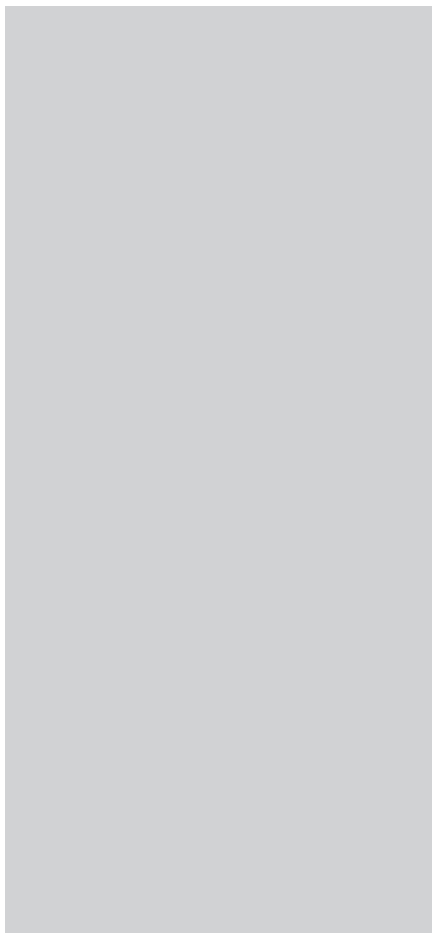
7. 羅漢像 宝福寺 その2



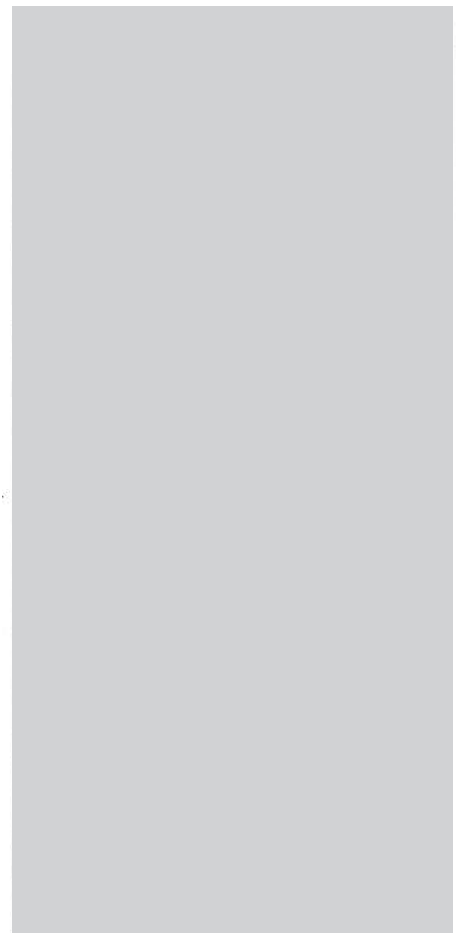
その1

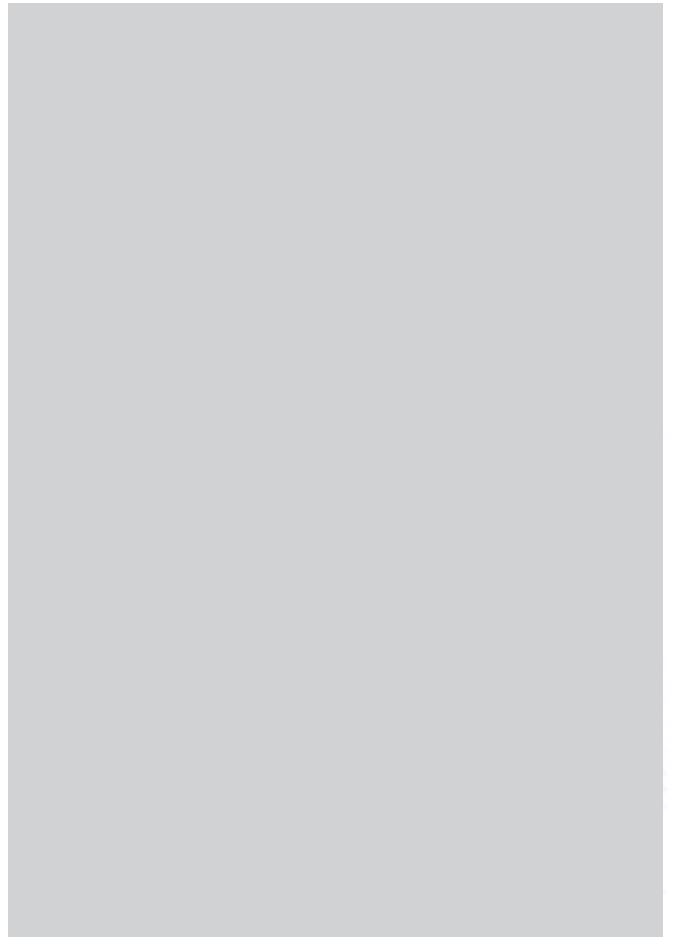
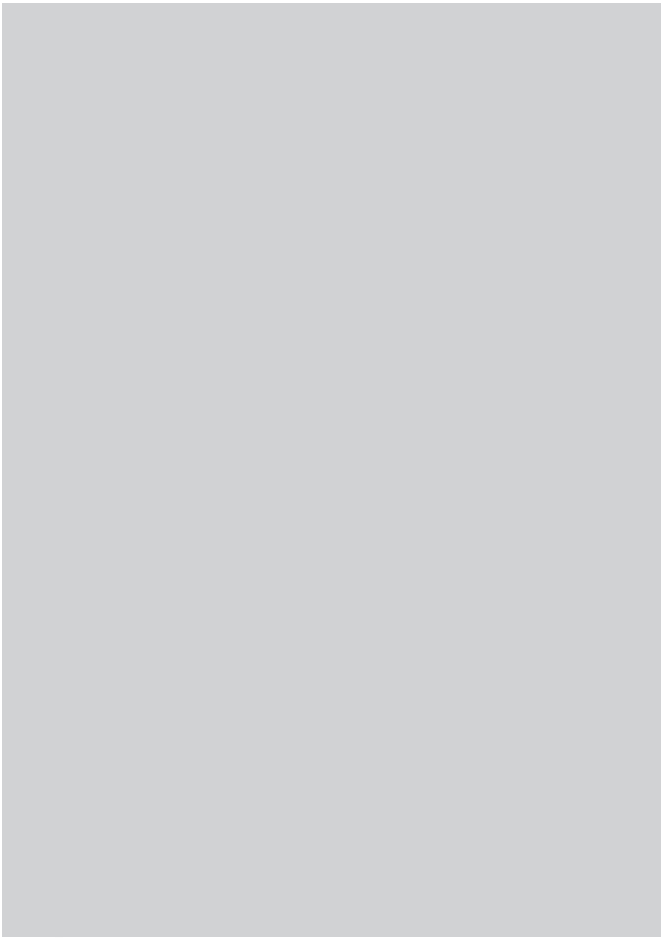


9. 毘沙門天立像 月橋院

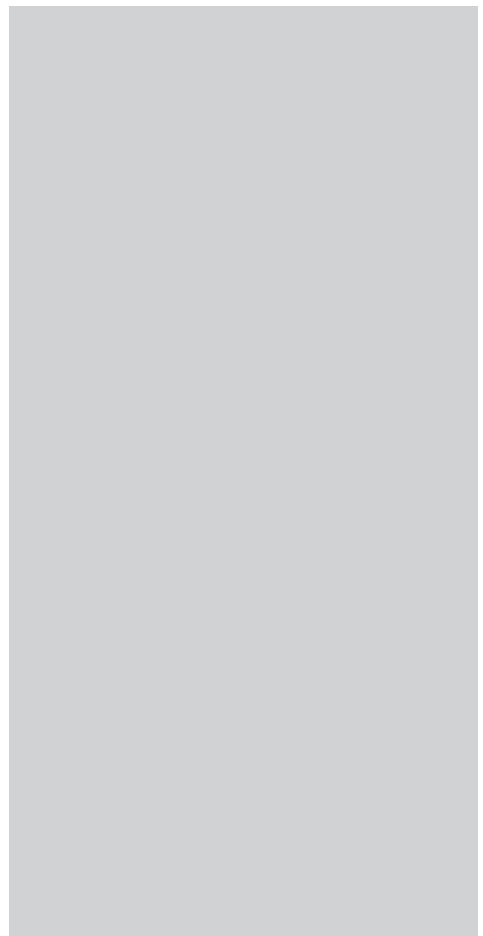
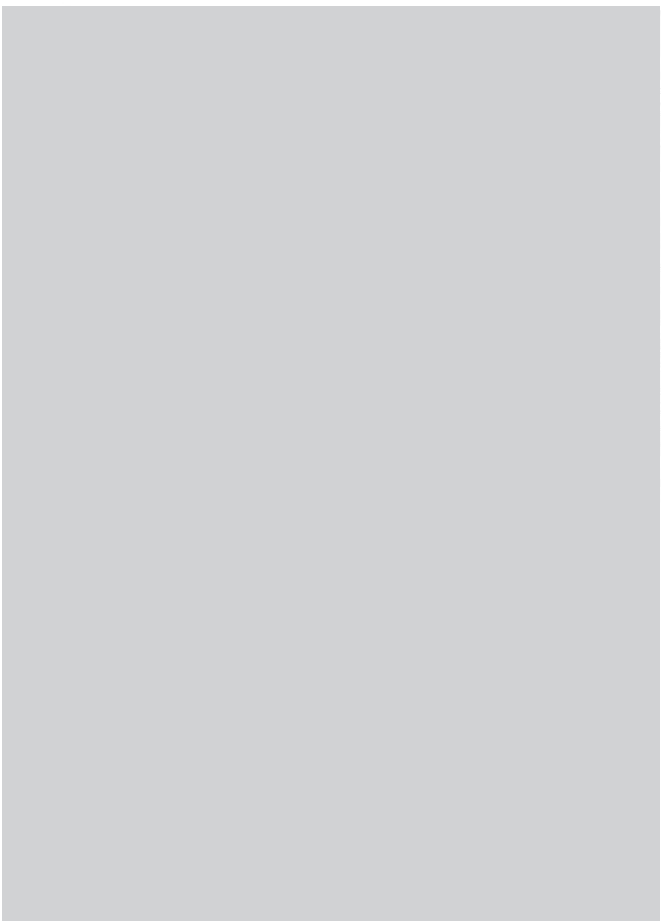


8. 阿弥陀如来立像 悟真寺

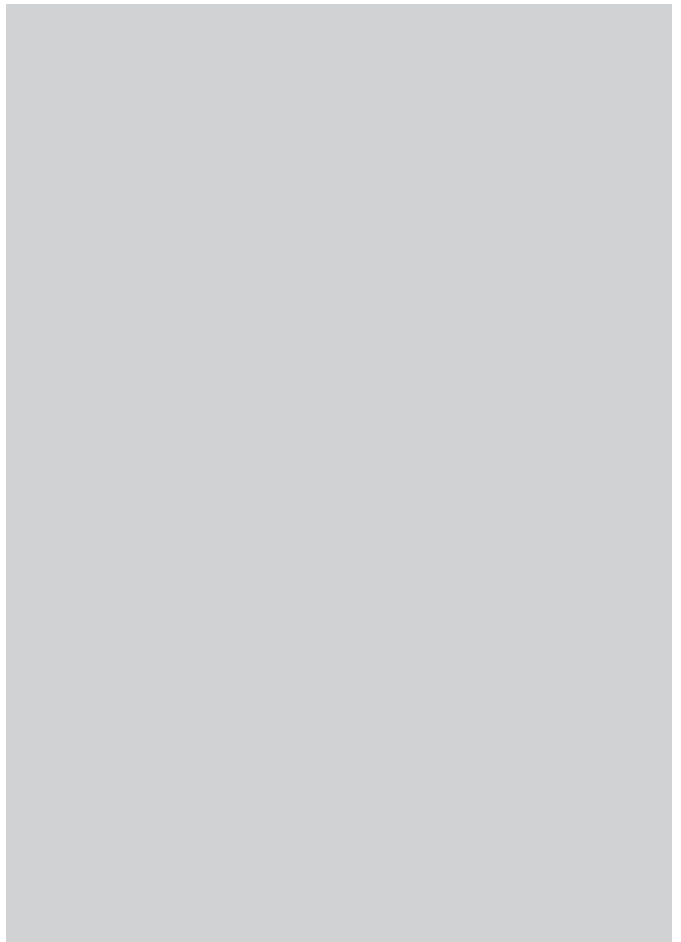
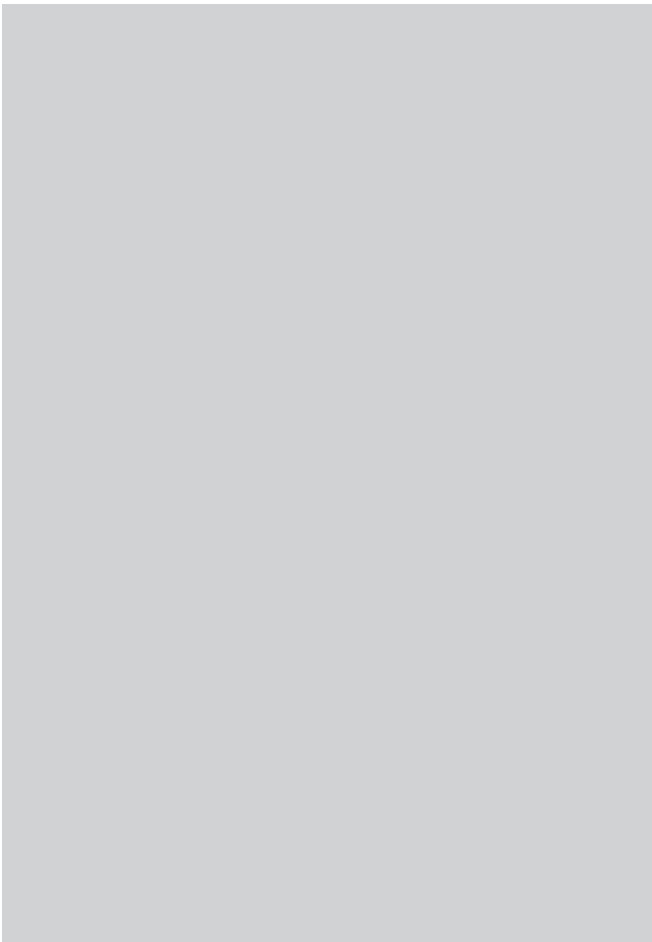
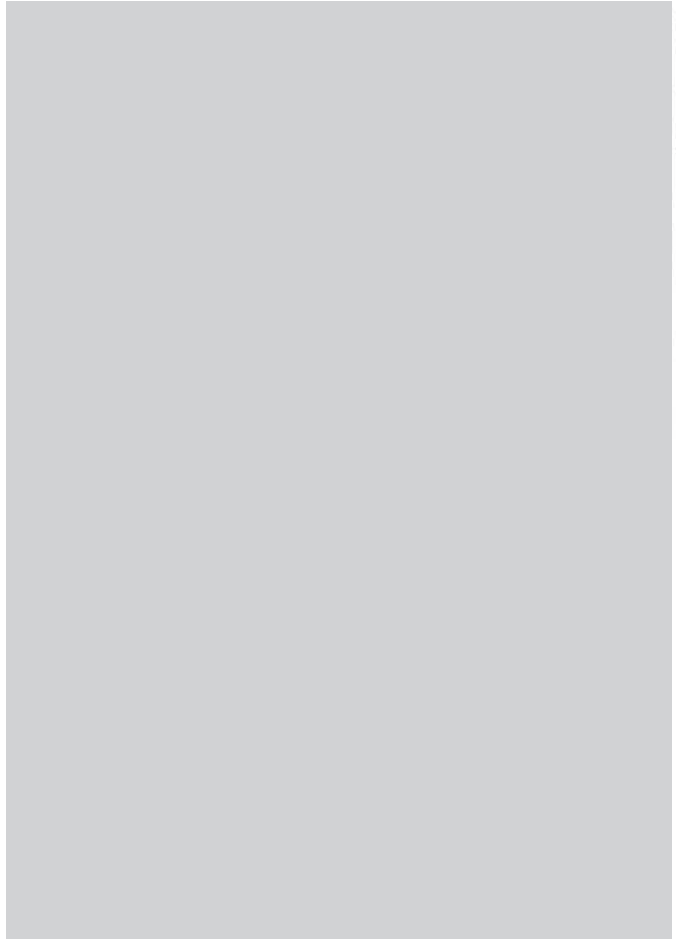
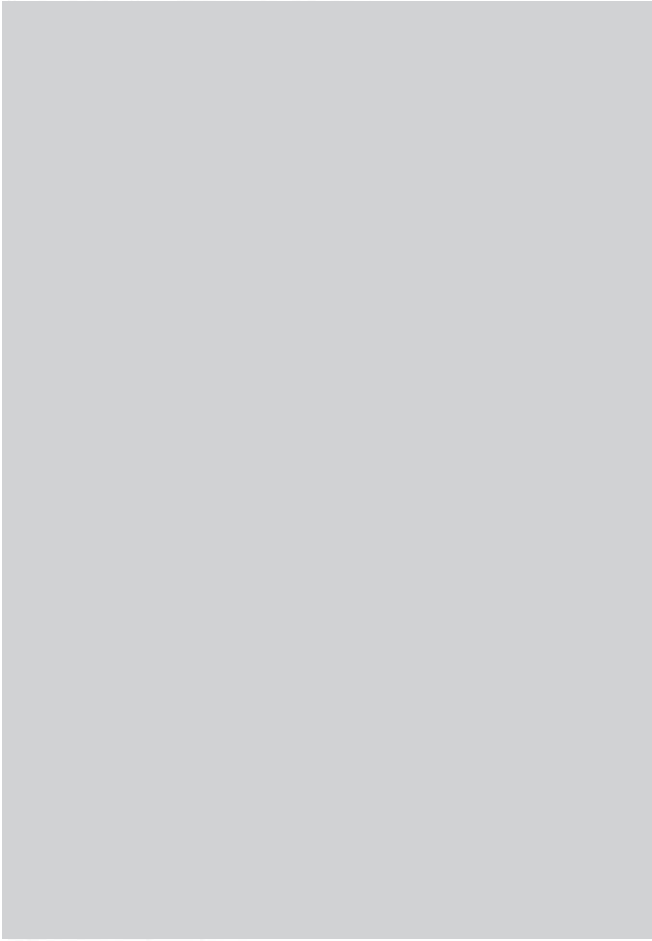




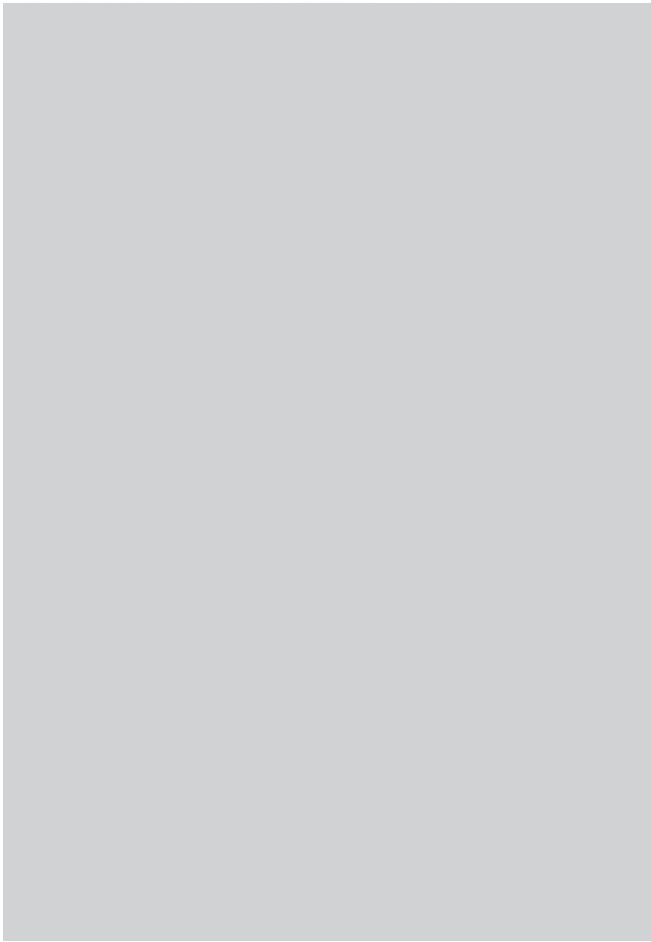
10. 藥師如來坐像 善福寺



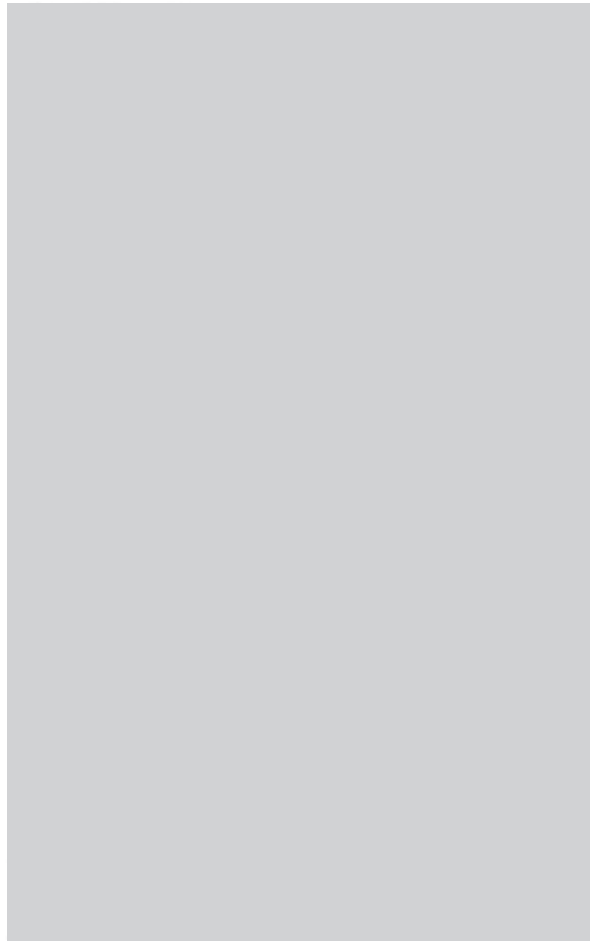
11. 不動明王立像 善福寺



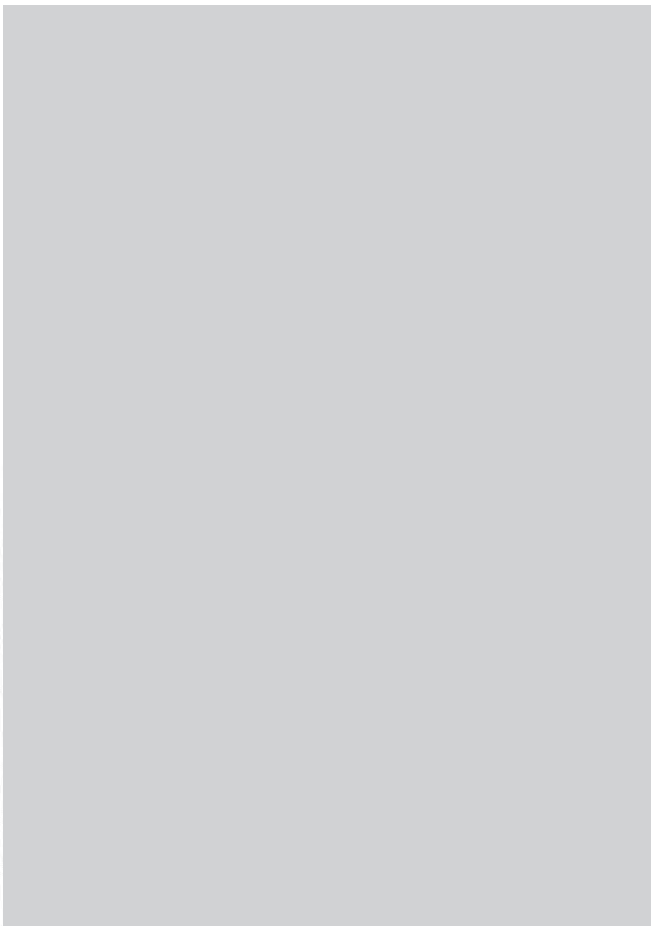
12. 薬師如来坐像 法伝寺



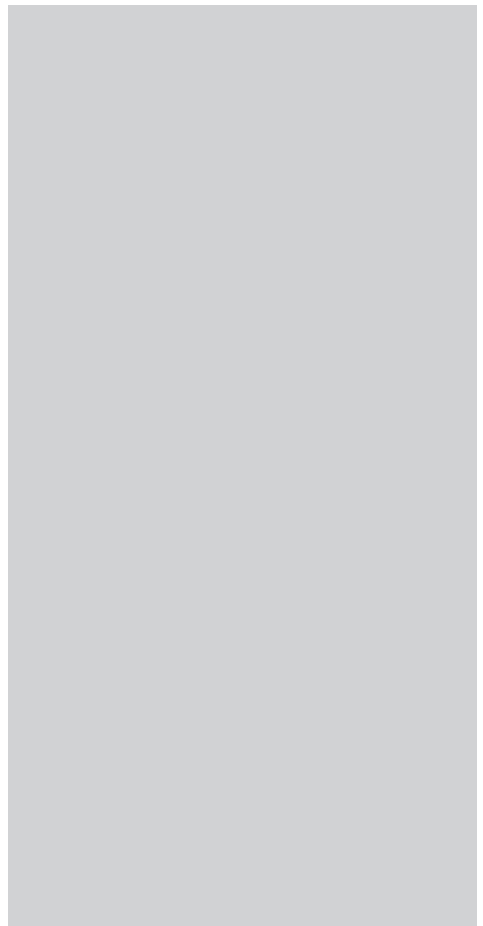
14. 阿弥陀如来立像 淨禪寺

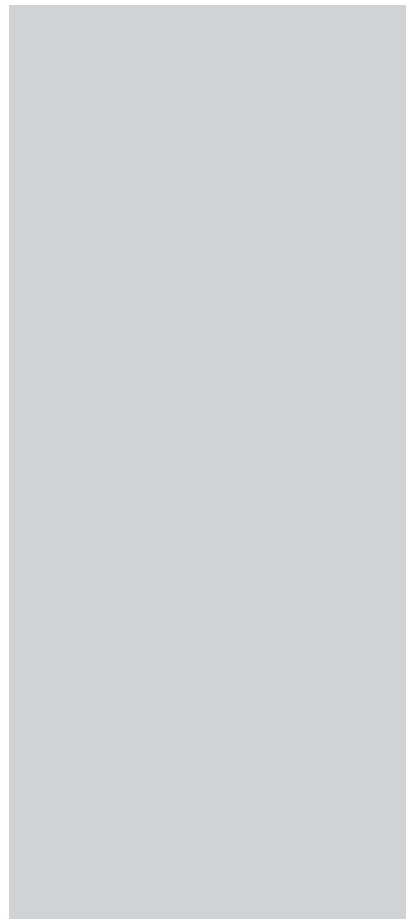
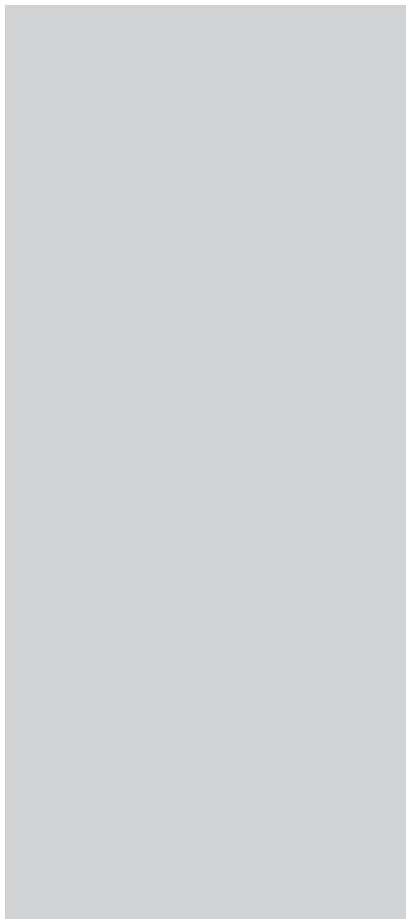
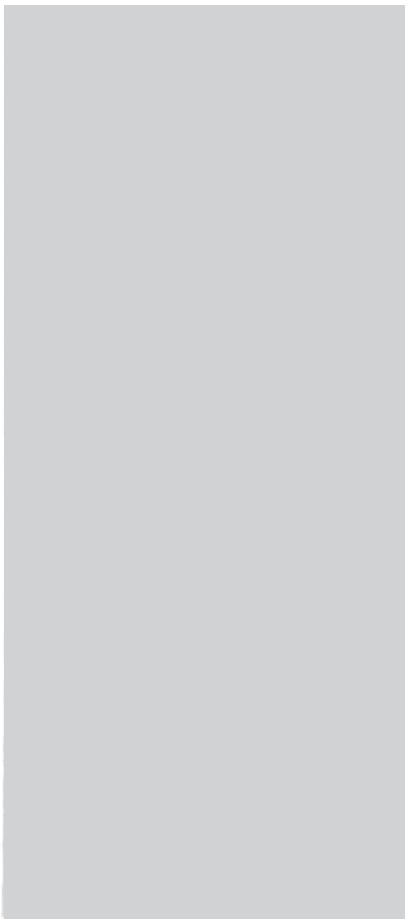
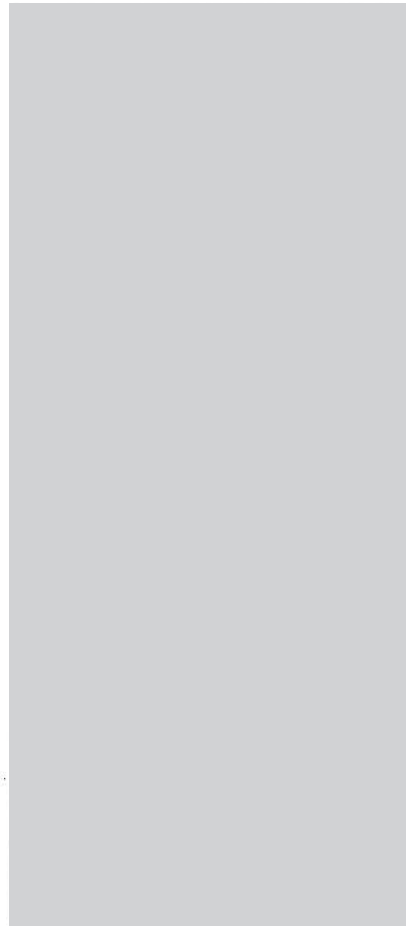
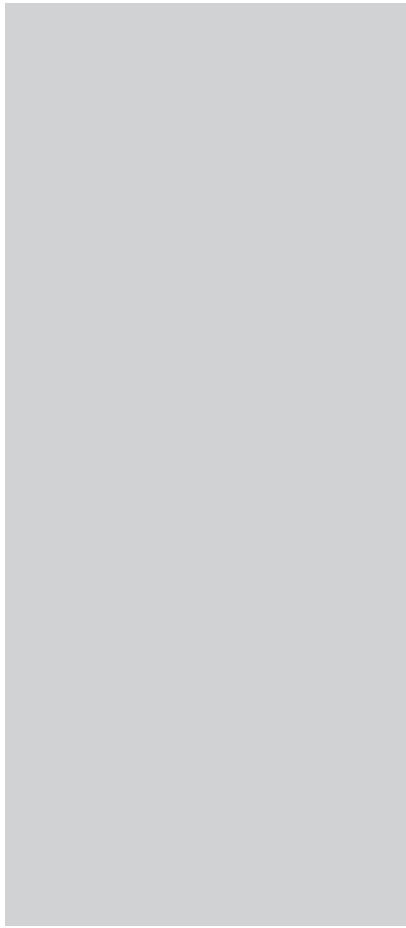
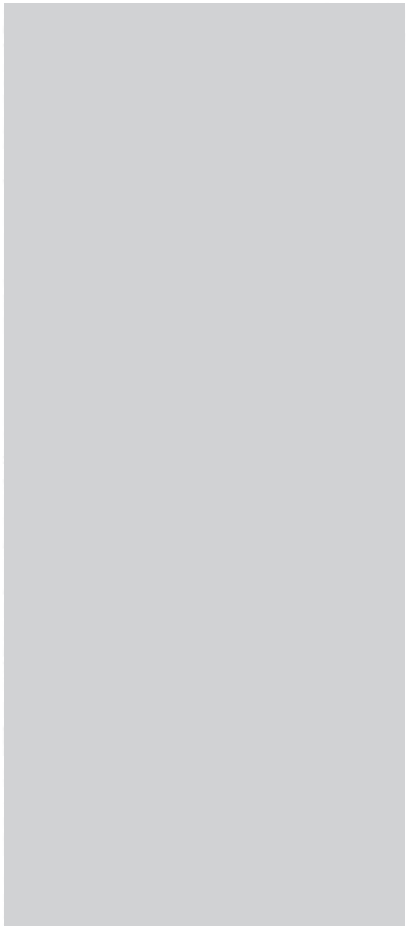


13. 阿弥陀如来立像 法伝寺



15. 十一面観音立像 淨禪寺





17. 十一面觀音立像 大蓮寺

16. 藥師如來坐像 大蓮寺

常泰寺

浄土宗
金戒光明寺末

京都市伏見区深草七瀬川町八八六

(紀伊郡深草村伏水町七瀬川町)

【宝物之部】

一、本尊阿彌陀如来立像	丈三尺壹寸五分	壹軀	室町時代	半等身
台座高	貳尺七寸五分			
一、觀音勢至二菩薩立像	丈一尺五寸五分	貳軀	江戸時代	
同	壹尺七寸四分			
一、善導圓光兩大師座像	丈壹尺五寸五分	同	江戸時代	
同	壹尺			
一、觀音菩薩座像	丈貳尺五寸	壹軀		
同	壹尺五寸			
一、地藏并立像	丈壹尺九寸	壹軀	江戸時代	
台座高	一尺			
一、韋駄天立像	丈壹尺三寸	同		
同	三寸二分			
一、紺紙金泥画三尊仏枕屏風		壹		
三枚折仕立	高五尺 横巾三尺一寸八分			
一、釈迦誕生銅仏		壹軀		
一、釈迦涅槃画像		壹軸		

〔記録外〕

【観音堂】

一、觀音菩薩坐像	一軀	江戸時代	等身
一、十一面觀音立像	一軀	平安時代 (九世紀か)	①※
一、地藏菩薩立像	一軀	鎌倉時代	②

①十一面觀音立像 一軀

形 状 頭上に十一面を頂き、条帛、裳を着け、天衣を懸けて立つ。(図1)
品質構造 木造(カヤか)。一木造。彫眼。

頭体は右手を含んで一材から彫出、左肩口で左手を矧ぐ。内割りなし。
現状古色仕上げ。
保存状態 「後補」頭上面のうち四面、両耳朶、鼻先、天衣遊離部、天衣垂下部、左手前膊半ばより先、右手指、裾先背面の地付から約五糎の部分、両足先。

〔欠失〕頭上面のうち二面。

法 量 像高 九七・二糎 髮際高 八一・九糎

頂一顎 二三・九糎 面長 九・一糎

面幅 九・九糎 面奥(現状) 一二・九糎

耳張 一二・一糎 胸厚(右) 一二・九糎

腹厚 一四・六糎 肘張 二六・六糎

裾張(現状) 二一・六糎

参考文献 台帳(伏見) 236頁

②地藏菩薩立像 一軀

形 状 腹帯を結ぶ形式。

品 質 木造(ヒノキ)。一木造。内割りなし。

保存状態 「後補」鼻先、左手先、持物、裾部背面の地付より約七糎の部分、両足先。

法 量 像高 七六・七糎

【寄附物之部】

一、真鍮香炉	高六寸二分 直径六寸二分	壹個
量	壹貫貳百四拾目	
一、同 花瓶	高八寸 直径七寸二分	壹対
量	壹貫八百目	
一、同 蠟燭立	高二尺壹寸四分	同
量	二貫五百八拾目	
一、同 花瓶	高八寸 直径壹寸五分	同
量	五百四十目	

一、同 蠟燭立	高一尺五寸七分	同
量 卷貫百目		
一、鉄釣燈籠	高九寸五分	同
量 六百目		
一、鏡鉢	鏡直径 卷尺二寸二分 鉢同 卷尺二寸四分	卷刃
量 貳貫貳百四拾目		
一、鑿	高八寸 直径卷尺卷寸	卷口
量 卷貫四百五拾目		

観音寺 浄土宗

京都市伏見区竹田内畑町二七八

(紀伊郡竹田村)

【宝物仏具之部】

一、本尊阿弥陀如来	金箔坐像三尺 同台后光六尺五寸	卷躰	桃山時代
一、阿弥陀如来	同 立像三尺 同五尺七寸	同	
一、同	同 一尺二寸 同二尺二寸	同	室町時代
一、裸形阿弥陀如来	同 二尺六寸 同四尺二寸	同	江戸時代
一、地藏菩薩	彩色立像二尺二寸 同四尺	同	江戸時代
一、同 尊	同 九寸 同二尺九寸	同	
一、阿大師	同 二尺二寸 同三尺二寸	二躰	
一、同	同 一尺 同二尺二寸	同	
一、阿弥陀如来	金箔立像一尺七寸 同三尺七寸	卷躰	
一、地藏菩薩	立像一尺七寸 台座后光三尺七寸	同	
一、誕生仏	唐金丈五寸五分 目方百目	同	
一、開山座像	總丈二尺	同	
一、真鍮蠟燭立	一尺三寸 目方七百廿目	卷対	
一、同 花瓶	一尺 同 一ノ五十目	同	
一、唐金花瓶	八寸五分 同 二百七十目	卷	

一、同 燈籠	四尺	同 十ノ七百六十目	卷対
一、銅釣燈籠	一尺	同 五百目	同
一、真鍮茶湯器	大小	同 七百目	四

【什物之部】

一、二僧対面画像	丈六尺七寸 巾二尺六寸	卷
一、釈尊画像	同四尺三寸 巾二尺三寸五分	同
一、二河画像	同四尺二寸 巾二尺九寸	同

〔記録外〕

(左脇壇)

一、阿弥陀如来立像	一軀	室町時代	①※
一、阿弥陀如来立像	一軀	平安時代 (十一世紀か)	②※
一、阿弥陀如来立像	一軀	平安時代 (十一世紀か)	③※
一、阿弥陀如来立像	一軀	江戸時代	④※

(右脇壇)

一、阿弥陀如来立像	一軀	平安時代 (十一世紀か)	③※
一、薬師如来三尊像	三軀	鎌倉時代 (十三世紀か)	④※
一、阿弥陀如来立像	一軀	室町時代	来迎形※
一、阿弥陀如来立像	一軀	江戸時代	
一、阿弥陀如来立像	一軀	室町時代	
一、勢至菩薩立像	一軀	南北朝時代	
一、西行坐像	一軀	室町時代	⑤※

①阿弥陀如来立像 一軀

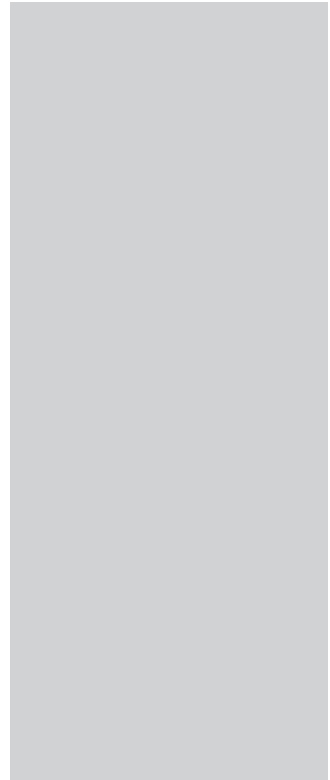
形 状 螺髪(刻出)、肉髻珠・白毫(ともに水晶製)をあらわし、大衣・偏衫を着け、来迎印を結んで立つ。(挿図1)

品質構造 木造(ヒノキ)。彫眼。漆箔。構造の詳細不明。

保存状態 「後補」両手首先、肉髻部、肉髻珠、白毫。ほかに全面大修理をうける。

法 量 像高 九五・六厘 髮際高 八九・五厘

肘張 二八・七種 腹厚 一五・四種



(挿図1)

②阿弥陀如来立像 一軀

形状 螺髪(刻出)、白毫(水晶製)をあらわし、大衣・偏衫を着け、来迎印を結んで立つ。(図2)

品質構造 木造(ヒノキ)。彫眼。漆箔。

保存状態 頭体の根幹部は前後割削ぎか。体側に左右各一材を寄せる。

法量 像高 九九・二種 髪際高 九一・四種
肘張 三一・〇種 腹厚 一七・一種

③阿弥陀如来立像 一軀

形状 螺髪(刻出)、肉髻珠・白毫(ともに水晶製)をあらわし、大衣・偏衫を着け、来迎印を結んで立つ。(図3)

品質構造 木造。彫眼。漆箔。

保存状態 頭体の根幹部は耳後の位置で前後に割削ぎ、三道下で割り首とし、体側は各一材を寄せ、両手先・両足先を削ぎ付ける。

法量 像高 六五・七種 髪際高 六二・二種
肘張 二〇・六種 腹厚 一〇・三種

保存状態 「後補」肉髻の頂辺部、肉髻珠、白毫、鼻のすべて、両耳朶、左手第二指、右手第二・三・四指、両足先。

④薬師如来三尊像 三軀

形状 (中尊) 螺髪(刻出)、白毫(水晶製)をあらわし、大衣を偏袒右肩に着し、左掌に薬壺を載せて結跏趺坐する。

(脇侍) 条帛、裳を着し、各内側の手をあげ、外側の足を踏み下げて坐す。(図4)

品質構造 木造。漆箔。

(中尊) 頭体の根幹部を一材から彫出し、前後に割削ぎ、さらに背面材は右左に割り、三道下で割り首とする。体部左方は左右二材を寄せ、袖先は横木を削ぎ、手先を挿し込む。右方は肩・肘・手首で削ぐ。両足部は横材削ぎ付け。内割りを施し、像底を削り残す。玉眼嵌入。

(脇侍) 頭体を前後に割り、三道下で割り首とする。体側部を各削ぎ付け、両足部は横材、踏み下げる足は縦材を寄せる。彫眼。

保存状態 「後補」(中尊) 右手第三指。(左脇侍) 宝冠、冠帯。(右脇侍) 宝冠、冠帯、左肩先、左手第一指、両足先。

(欠失) (中尊) 左手第二指先・第五指。(左脇侍) 左肘先、右足先。(右脇侍) 右肘先。

法量 (中尊) 像高 五一・七種
(左脇侍) 総高 三三・五種 坐高 二三・〇種
(右脇侍) 総高 三一・〇種 坐高 二三・一種

伝来 磨常楽寺の本尊で、明治初年に移された。

参考文献 台帳(伏見) 142頁、城南352―353頁

⑤西行坐像 一軀

形状 (省略・挿図2)

品質構造 木造。彩色。玉眼嵌入。

保存状態 頭部を襟際で挿し込みとするが、構造の詳細不明。像底に板を張り白土塗りとする。

法量 像高 三八・六種
参考文献 城南353―354頁

念仏寺 浄土宗

京都市伏見区納所北城堀二三の一

(紀伊郡納所村大字納所)

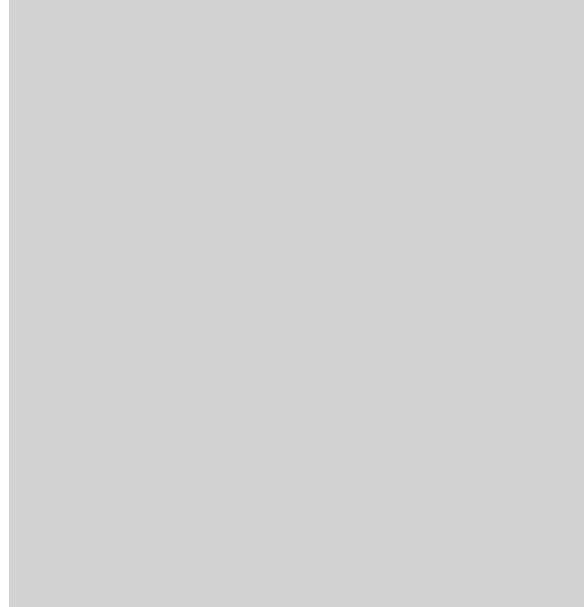
【宝物之部】

- 一、本尊阿弥陀如来 立像 丈二尺後光台坐共厨子入五尺
- 一、本尊同 誓用院持 同 同二尺五寸 同 四尺
- 一、同 元西林菴持 同 同二尺 同 三尺五寸
- 一、銅金五劫思惟如来座像 同三尺五寸
台座共目方六ノ五百目
- 一、両大師座像 台座共一尺三寸
- 一、開山像 同 同二尺二寸
- 一、仙徳花立 高七寸 差渡五寸 目方一ノ三百目 壺対
- 一、同蠟燭立 高一尺四寸差渡五寸 目方一ノ四百目 壺対
- 一、同線香立 同五寸五分 同四寸五分

鎌倉時代
(十三世紀末)

①
②
③※

江戸時代
江戸時代

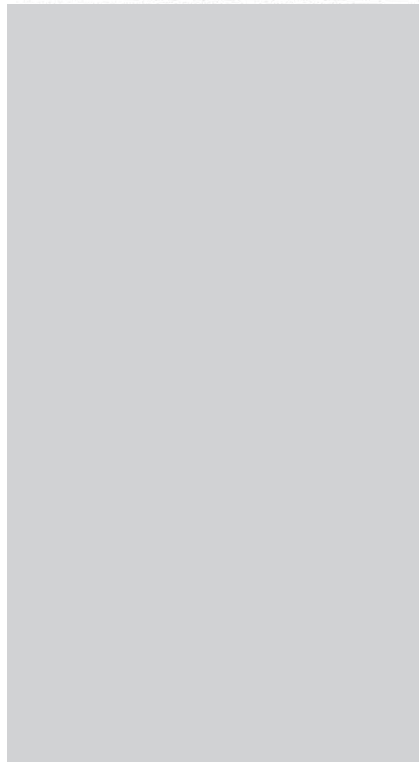


(挿図2)

- 蓋共目方七百五十目
- 一、銅金燈籠 同二尺三寸 同八寸
台共目方七ノ四百目 壺対
- 一、真鍮花立 同四寸五分 目方五百目 同
- 一、錫花立 同五寸五分 同 三百目 同
- 一、真鍮蠟燭立 同五寸六分 同 七百四十目 同
- 一、同香炉 同二寸四分 差渡四寸 目方二百六十目 壺ツ

① 阿弥陀如来立像 一軀

法 量 像高 八二・〇糎
参考文献 台帳(伏見) 7頁



(挿図3)

②当寺には九〇種前後の来迎印を結ぶ阿弥陀如来立像が、本尊の他に次の三軀蔵されてる。

(その一) 阿弥陀如来立像 一軀
形 状 螺髪(刻出)、肉髮珠(木製)、白毫珠(水晶製)をあらわし、左肩に大衣、右肩に偏衫、下半身に裳をそれぞれ着ける。左手は少し肘を屈立て第一・二指を捻じ、右手は屈臂して第一・二指を捻ず。両足を揃えてけつ。(図5)

品質構造 木造（ヒノキ）。漆箔。玉眼嵌入。

頭体の主部は縦一材を用い、右方は耳後、左方は耳前の位置で前後に割り切ぐ。肉髪部は横木一材を寄せ、両手部はそれぞれ縦木一材を肩口で切ぎ付ける。両手先・両足先をそれぞれ短く。

保存状況 「後補」左手第三・四・五指のすべて、右手第二指頭。

〔欠失〕右手第三・四・五指の半ばより先。

法 量 像高 九七・二種 髪際高 九〇・一種

頂一顎 一七・四種 面長 一〇・九種

面幅 一〇・五種 耳張 一三・七種

面奥 一三・七種 肘張 三〇・六種

胸厚（右） 一四・四種 腹厚（衣を含む） 一四・六種

裾張 二一・五種

備考 「時代」鎌倉時代（十三世紀）

（その二）阿弥陀如来立像 一軀

法 量 像高 八〇・七種

備考 「時代」鎌倉―南北朝時代（十三―十四世紀）

（その三）阿弥陀如来立像 一軀

法 量 像高 九四・五種

備考 「時代」江戸時代

③銅造如来倚像 一軀

形 状 螺髪（鋳出）、肉髻珠・白毫（ともに水晶製）をあらわし、右肩に偏衫

を、左肩に大衣を偏袒右肩にそれぞれ懸け、下半身には裳を着す。両手

先（現状木製）は来迎印を結ぶ。蓮華座上に倚坐する。（図6）

品質構造 鋳造（銅）。漆箔。

全身一鑄。厚みは背面腰部で約一・五種。背中に笄四本が認められ、頭部には中型土が残る。地付部に木板を張り、漆布を貼る。体部に漆箔を置き、螺髪は群青彩か。

保存状況 「後補」肉髻珠、白毫、両手先、地付板。

〔欠失〕右袖先の一部。

法 量 像高 六四・四種

髪際高 四二・一種

面長 九・八種

耳張 一三・二種

胸厚（左） 一二・三種

肘張 二六・六種

両足開（外） 二五・四種

坐奥 二三・二種

坐高（現状） 四九・〇種

頂一顎 一六・五種

面幅 一〇・一種

面奥 一二・三種

腹厚（結び紐の下） 一五・一種

膝張 二六・七種

両足開（内） 一三・八種

〔記録外〕

【地藏堂】

一、石造地藏菩薩立像

【薬師堂】

一、薬師如来坐像

一、日光・月光菩薩立像

一、十二神将立像

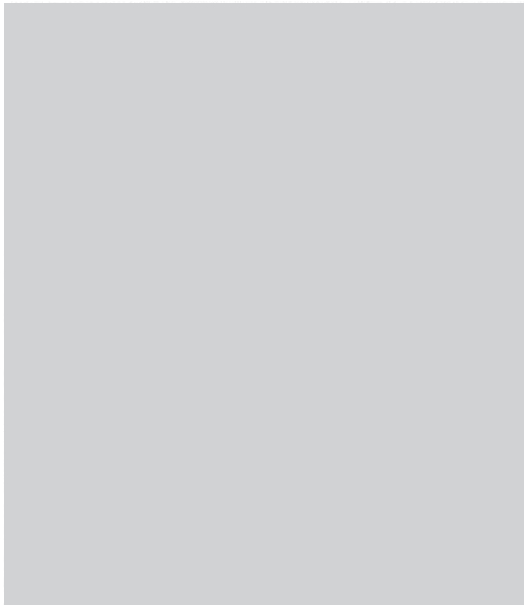
一軀 江戸時代

一軀 鎌倉時代か

二軀 江戸時代

十二軀 江戸時代

④



（挿図4）

④薬師如来坐像 一軀

形状 (省略・挿図4)

品質 木造。彩色。玉眼嵌入。

法量 像高 四八〇

備考 「像底両足部墨書銘」

「□仏師」

宝福寺 曹洞宗

京都市伏見区西大文字町九六五

(紀伊郡伏水町字大文字町)

【本堂之部】

- 一、本尊釈迦木像
- 一、羅漢木像
- 一、銅地藏尊立像
- 一、銅誕生仏立像
- 一、観音木像
- 一、涅槃画像
- 一、観音懺法
- 一、大布薩式本
- 一、法華経
- 一、金剛経
- 一、理趣分
- 一、楞嚴咒
- 一、歎仏式本
- 一、大鑿
- 一、小鑿
- 一、銅燈籠
- 一、同香燈

老鉢	明代か	六・一・九
十六鉢	江戸時代	① 纏※
百鉢		
一鉢		
同	平安時代 (十一世紀か)	② ※
老軸		
老卷		
一卷		
一部		
一卷		
同		
同		
同		
同		
一個		
一對		
一個		

- 一、同蠟燭立
- 一、同花瓶

同

①羅漢像 十六軀

彩色像六軀、漆箔像六軀からなり、彩色像の方が少し大型で、やや古様である。

②聖観音立像 一軀

形状 左手に蓮茎を持って立つ。(挿図5)

品質構造 木造(ヒノキ)。漆箔。彫眼。

頭体一材から彫出し、両肩から先を削ぎ付け、腰下背面に後補の板を貼る。

保存状態 「後補」装身金具、白毫、鼻のすべて、両手(肩口から先)、腰下背面の板、左足先。

法量 像高 八五・一 髪際高 七四・三

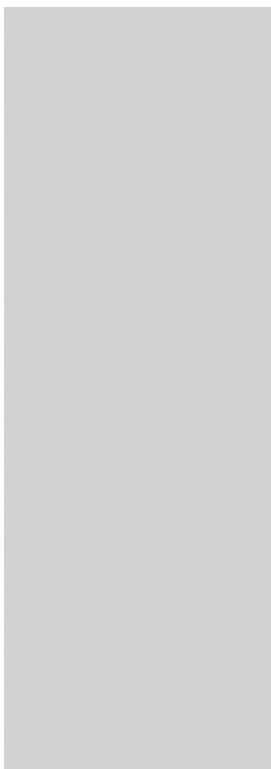
頂―顎 二〇・四 面長 八・一

面幅 八・八 面奥(現状) 一一・一

耳張 一一・一 胸厚(左) 一〇・〇

腹厚 一一・五 裾張 一六・六

伝来 『略縁起』(文政六年)があり、それによるともと、豊後国源朝臣久恒の母自性院の念持仏であったが、伏見の廃龍谷寺へ移され、のち明治六年に宝福寺へ迎えられた。



(挿図5)

【記録外】

【金毘羅堂】

一、羅漢像

二軀 一明代か ……③※

③羅漢像 二軀

形状 (その一)衣の上からたすきを懸け、頸うしろで結ぶ。帯をしめ、杵を
はく。右手を高く上げて、珠をつまみ、左手は前方に差しだして壺を載
せる。壺中から龍頭(頭部欠失)が出る。両足踏み下げて坐す。(図7
の1)

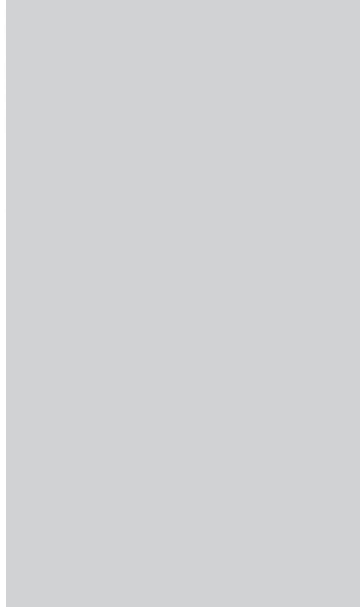
(その二)衣に帯をしめ、杵をはく。右手を頭上にふり上げ、左手は胸
前にて第一・四・五指を捻ずる。両足を踏み下げて坐す。(図7の2)

品質構造

木造(堅材)。漆箔(上に漆をかける)。

(その一)頭部は一材から彫出。体部は、両側部を各一材、その間に前
後二材を挟み、中心部を空洞にし、上部に横木、下部に棚板を設ける。

両手は各一材からなり(持物共木、龍頭別材)、両膝下は左右二材を矧
ぎ寄せる(杵先別材かどうかは不明)。表面は青粘土風の下地を置き、
布を張り、さらに下地を置き、漆箔を施す。像内の吊金具に五臓(銀線
に銀色板金、吹き子玉、紅染絹綿を付けたもの)を懸吊する。(挿図6)



(挿図6)

(その二)構造はその一に準ずる。像内には懸吊用の金具があるが、五
臓は紅染絹綿のみが遺る。

保存状態

〔後補〕(その二)底棚板。

〔欠失〕(その一)右手第五指、左手持物龍頭、裾の一部。

法量

(その二)左手第二指。

(その一) (その二)

総高(右手―裾) 七七・八種 七三・〇種

坐高 五一・五種 五二・五種

頭―杵先 六五・一種 六五・六種

裾張 四五・五種

左杵先 四六・五種 五一・二種

腰奥

備 考 来 もと伏見城学問所にあったもの。
宇治市万福寺の十八羅漢像の同形の像は、半托迦尊者(その一)、跋陀
羅尊者(その二)と伝える。

勝念寺

浄土宗
知恩院末

京都市伏見区石屋町

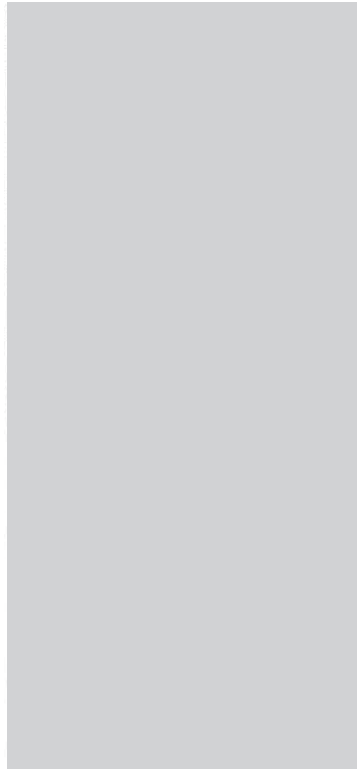
(紀伊郡伏水町字石屋町)

【宝物之部】

一、本尊阿弥陀如来木立像	老躰	江戸時代	
一、善導円光両大師木立像	二躰	江戸時代	
一、宗祖円光大師座像	老躰	江戸時代	
一、阿弥陀如来座像	同		
一、脇壇三尊仏厨子入	同		
一、誕生釈迦仏唐銅立像	同	江戸時代	
一、涅槃画像	同	江戸時代	
一、弁財天厨子入座像	同		
一、宗祖大師御画像	四幅		
一、地藏尊木立像	老躰	鎌倉時代か	九十六種
一、迦羅二十五井	同	江戸時代	阿弥陀二
一、如意輪観世音菩薩	同		十五菩薩
一、焰摩法王厨子入	同一寸八分	桃山時代	

- ① 門出八幡宮厨子入 一軀 同 江戸時代
 一、聖徳太子 同 同一尺二寸五分 室町時代
 一、阿弥陀如来 同 同一尺二寸 江戸時代
 一、毘沙門天 同 同三尺二寸 鎌倉時代(頭部のみ)
 一、十王之内 同 江戸時代
 命司録司

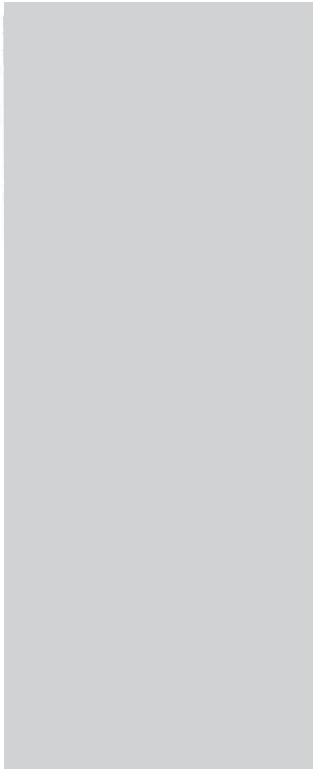
① 門出八幡神立像 一軀



(挿図7)

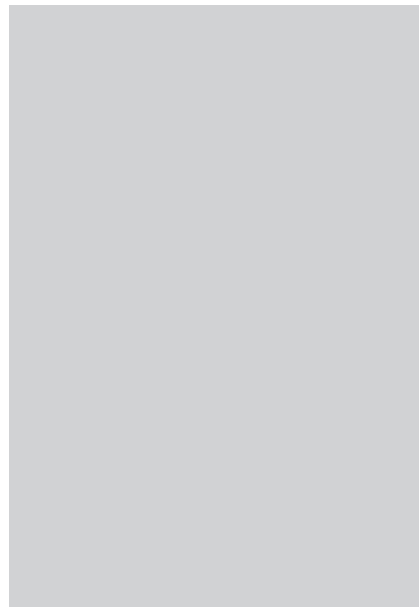
② 聖徳太子立像 一軀

法 量 像高 三八・二寸
 参考文献 台帳(伏見) 25頁



(挿図8)

③ 毘沙門天立像 一軀
 法 量 像高 一〇九寸



(挿図9)

【什物之部】

- 一、唐銅五具足 花立 径九寸 老組
 蠟燭立 二尺
 香炉 同七寸
 合量五貫四百目
 一、真鍮三具足 合量老貫百目 同
 一、開通頸唐金香炉 老具
 一、唐銅台燈籠 三尺 十一又二百目 同
 一、三部妙典 同
 一、三部経合巻 二部
 一、牡丹画 老軸
 一、関羽画 同

源空寺

浄土宗
金戒光明寺末

京都市伏見区瀬戸物町七四五

(紀伊郡伏見町字新大黒町)

【宝物之部】

一、本尊円光大師座像 円光大師直作張貫之像 台座金箔塗 高式尺三寸五分 前巾三尺一寸 奥行二尺七寸	丈式尺四寸五分	老軀	江戸時代	
一、阿弥陀如来 台座木金箔塗 高一尺二寸五分	老軀			
一、同 金箔塗木立像 丈三尺七寸五分	老軀	江戸時代	三三・二	
腹仏阿弥陀如来 天竺伝来木像 丈七寸	老軀			
台座木金箔塗 高六寸五分 巾四寸六分				
一、釈迦誕生仏 立像唐銅 丈三寸八分	老軀			
一、善導大師 木立像彩色 丈一尺四寸五分	同			
台座木金箔塗 高六寸 巾径八寸				
一、大黒天木立像 丈一尺四寸	同	桃山—江戸時代	五五・七	
台座木金箔塗 高九寸 前巾一尺 横巾一尺				
一、釈迦如来涅槃像 彩色絵表具 杉篋入 惣丈八尺四寸 横巾四尺七寸	老幅			
一、来迎仏画像 三枚折屏風仕立 紺地彩色画 高三尺九寸 巾一尺七寸	老			
一、十一面観世音菩薩 白木坐像 丈九寸	老軀	室町時代	二八・一	
台座木金箔塗 高一尺五寸 巾七寸 六方角				
一、愛染明王 木座像 彩色 丈一尺八寸五分	老軀	室町時代	五四・七	
台座高サ老尺 但大破損				
一、地藏菩薩 石像	老軀	江戸時代	三七・〇	

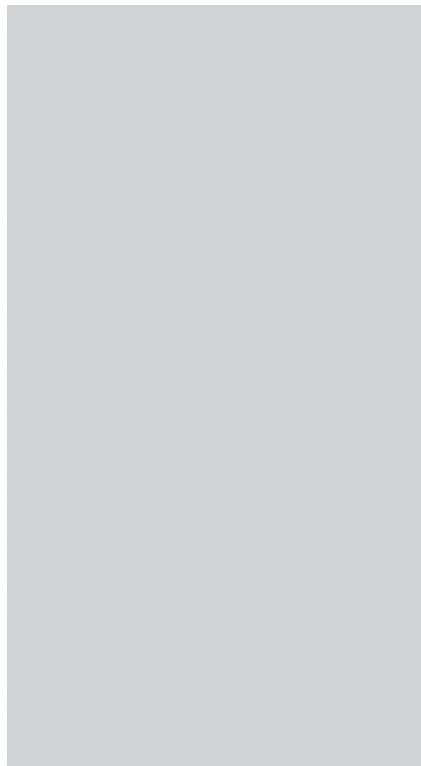
〔記録外〕

- 一、地藏菩薩立像
- 一、毘沙門天立像
- 一、天王立像
- 一、阿弥陀如来坐像
- 一、地藏菩薩立像
- 一、不動明王立像
- 一、十一面観音坐像

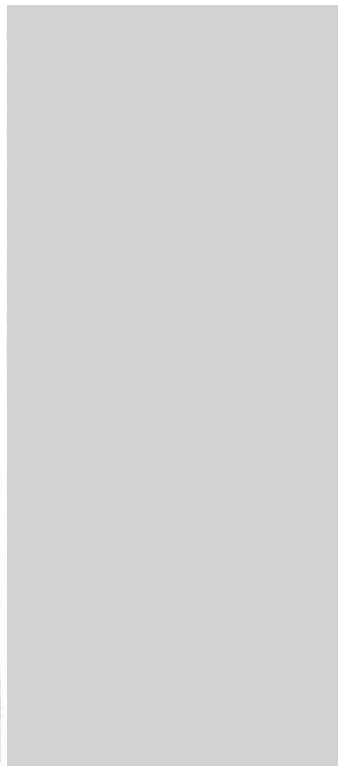
一 軀	江戸時代	七三・〇
一 軀	江戸時代	一一・三
一 軀	江戸時代	一一・二
一 軀	江戸時代	三七・三
一 軀	江戸時代	五五・六
一 軀	江戸時代	五四・七
一 軀	江戸時代	〇四・五
一 軀	室町時代	三七・九

①阿弥陀如来立像 一 軀

備 考 像内に阿弥陀如来立像(木心泥塑像、江戸時代)を納める。(挿図10)



(挿図10-2)



(挿図10-1)

②大黒天立像 一軀

備考〔台座背面朱書銘〕

〔太閤秀吉公御持念

朝日大黒天御修復

施主

松吉嘉兵衛

松吉安右三門

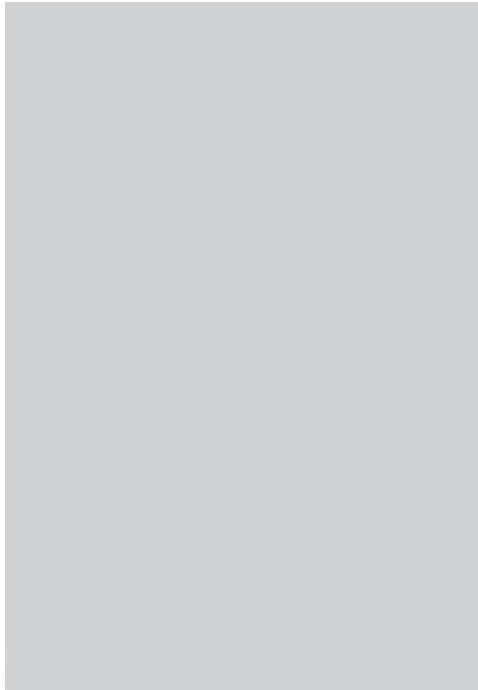
中江吉兵衛

嘉永二年

西十一月

源空寺

運替代



(挿図11)

③愛染明王坐像 一軀

④地藏菩薩立像 一軀

備考〔台座框裏裏面墨書銘〕

〔河副家来

純子屋内

加地林右衛門

与津女

中山新右衛門

千女

豊女

栢女

屋奈女

俊女

関平

弥五平

軍平

ノ

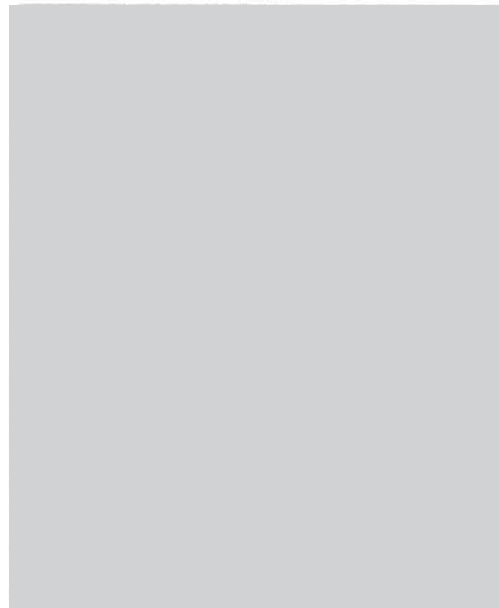
山田勝右衛門

内藤為右衛門

┌

⑤十一面観音坐像 一軀

備考〔台座蓮肉上面墨書銘〕



(挿図12)

〔明暦元年〕
 観音様御納出
 成就之被成夏

願主歆著

安空

末ノ

三月廿五日

┌

【寄附之部】

一、唐銅燈籠	高二尺二寸五分	指渡八寸	尙対	
量	貳貫九百目			
一盤	高一尺	口指渡一尺三寸	同	
量	壹ノ八百目			
一、伏鉦	高三寸五分	口渡八寸五分	同	
量	貳貫百目			
一、真鍮五具足				
香炉	蓋共	高七寸	指渡五寸	尙
花瓶		高六寸	指渡三寸	尙対
蠟燭立		高一尺四寸	指渡三寸	同
一、錫花瓶		高一尺一寸五分	指渡七寸五分	尙対
量	壹貫百八十目			
一、木真鍮張香炉	高七寸	前巾一尺二寸三分	尙	
奥行	七寸五分			
一、唐銅花瓶		高九寸二分	指渡九寸	尙対
量	三貫二金目			
一、真鍮三具足				
香炉		高二寸七分	一	
蠟燭立		同一尺四寸	一本	
花瓶		同六寸八分	一本	

大黒寺 真言宗

京都市伏見区鷹匠町四

(紀伊郡伏見町字鷹匠町)

【宝物之部】

一、本尊大黒天木像厨子入	弘法大師作	一鉢	江戸時代
一、大黒天箱入御影像	有空海之印	同	
一、大黒天前立木像		同	
一、同 御影判木		大小 二個	江戸時代
一、十一面観音	高一尺一寸	厨子入	一鉢
唐金仏			江戸時代
一、金剛界大日	本仏	尙体	
一、愛染明王	同	同	
一、不動明王	同	同	江戸時代
一、毘沙門天	同	同	
一、聖天	浴油仏	二鉢	
一、弁財天	厨子入木仏	一鉢	
一、地藏尊	同	同	
一、弘法大師	大厨子入木仏	大小 二鉢	江戸時代
【寄附物之部】			
一、舍利塔		一台	
一、聖天円壇			
一、大般若経		六百卷	
一、唐舎三ツ具足			
香炉	高三寸一分	徑三寸九分	
蠟燭立	同一尺三寸八分		
花立	同七寸五分	徑四寸五分	
合量一貫四百目			

铸造

一、鏡鉢	鏡 径 九寸八分 鉢 径 九寸四分 合量一貫五百目	一對
一、唐金燈籠	高一尺九寸五分 径七寸九分 合量四ノ六百目	一對
一、真鍮釣燈籠	高一尺五寸 径一尺八寸 合量三ノ四百目	一對
一、真鍮蠟燭立	合量五百目	三本
一、同 輪燈		
一、同 花瓶		七箇
内二個唐金		

悟真寺 浄土宗

京都市伏見区榎町七二三

(紀伊郡伏水町字榎町)

【宝物部】

一、本尊阿弥陀仏	座木像 丈一尺八寸五分	壳軀	江戸時代
一、観音勢至	座木像 同一尺一寸五分	二軀	江戸時代
一、両大師	座木像 同一尺六寸	同	江戸時代
一、開山	座木像 同一尺六寸五分	壳軀	江戸時代
一、地藏菩薩	立木像 同一尺九寸	同	江戸時代
一、如意輪観音	座木像 同一尺九寸	同	江戸時代
一、阿弥陀仏	座木像 同一尺四寸五分	同	江戸時代
一、同	立木像 同一尺六寸	同	江戸時代
一、釈迦誕生仏	銅立像 丈三寸五分 量五十目	壳軀	江戸時代
一、涅槃像	掛物 丈八尺 巾六尺	同	

五二種
九三種
四二種

〔記録外〕

一、大黒天	立木像 同六寸	同
一、韋駄天	同 同四寸	同
一、阿弥陀如来立像	一軀 平安時代(十二世紀か) ①※	
一、両大師坐像	二軀 江戸時代	三尺像
一、地藏菩薩坐像	一軀 室町時代	三三三種
一、観音菩薩立像	一軀 室町時代	五二種

①阿弥陀如来立像 一軀

形 状 螺髮(彫出)、肉髻珠・白毫(ともに水晶製)をあらわし、大衣を偏袒

右肩に着し、立つ。来迎印を結ぶ。(図8)

品質構造 木造(ヒノキ)。漆箔。彫眼。

頭体はそれぞれ前後に割り矧ぎ(頭部は耳後の位置で)、三道下で前掛け状に四角く接合する。両肩口で矧ぎ、左側は袖先まで二材、右側は肘先・手首で別材を矧ぐ。両足先を矧ぎ、足柄は別材製。

保存状況 「後補」肉髻珠、白毫、両手先、両足先。

法 量 像高 九八・六種 髮際高 八九・三種

頂ノ顎 二〇・四種 面長 一〇・九種

面幅 一〇・六種 面奥 一二・〇種

耳張 一三・八種 肘張 二九・六種

胸厚(左) 一三・〇種 腹厚 一五・二種

裾張 一九・八種

伝 来 磨宝樹院旧蔵。

備 考 台座(補) 框座底面に次の墨書銘がある。

「京寺町姉小路上ル

大仏師治兵衛

施主

通天老和尚

求門遺久」

【寄附物之部】

一、唐銅台燈籠	高三尺四寸	量合五ノ六百目	壺対
一、真鍮花立	高六寸五分	同三百七十五文目	二本
一、同蠟燭立	高一尺五分	同六十五文目	一本
一、唐銅花立	同六寸五分	同三百五十目	一对
一、同	同八寸	同九百五十目	同
一、同蠟燭立	同一尺七寸	同九百五十目	同

喜運寺 曹洞宗

京都市伏見区鷹匠町三
(紀伊郡伏水町鷹匠町)

【本尊部】

一、本尊釈迦如来坐像	壺鉢	江戸時代
一、文殊菩薩坐像	同	江戸時代
一、普賢菩薩坐像	同	江戸時代
一、誕生金仏	同	
一、涅槃画像	壺軸	
一、出山釈迦	同	
一、大般若経	六百卷	
一、金剛経	壺巻	
一、法華経	一部	
一、銅香炉	壺	
一、同花瓶	一对	
一、同燭台	同	
一、鑿子	一個	
一、愛染明王坐像	一軀	桃山時代

伏見城内
旧愛染堂
藏

宝国寺

浄土宗
知恩院末

京都市伏見区榎町七七〇

(紀伊郡伏水町字榎七百七十番地)

【宝物寄附物並什物之部】

一、本尊阿弥陀仏	木像	壺鉢	室町時代
一、觀世音菩薩		同	江戸時代
一、大勢至菩薩		同	江戸時代
一、觀世音菩薩		同	江戸時代
一、地藏井		二鉢	江戸時代
一、毘沙門尊		壺鉢	江戸時代
一、誕生釈迦尊	金仏	壺鉢	
一、善導大師	木像	同	江戸時代
一、円光大師	同	同	江戸時代
一、唐金五具足		壺組	
香炉	径七寸五分	花瓶	丈一尺一寸
蠟燭立	丈二尺	目方合六貫五百五十目	
一、同 台燈籠	丈三尺九寸	目方六貫九百目	壺対
一、立三具足			壺組
香炉	径四寸	花瓶	丈五寸五分
蠟燭立	丈一尺二寸	目方合壺貫二百目	
一、同 華瓶	丈八寸	目方六百目	壺対
一、真鍮三具足			壺組
香炉	径五寸	花瓶	丈九寸
蠟燭立	丈一尺八寸	目方合三貫三百五十目	
一、同 三具足			壺組
香炉	径三寸	花瓶	丈五寸五分
蠟燭立	丈一尺二寸三分	目方合七百五十目	
一、同 花瓶	丈九寸五分	目方六百四十目	壺対
一、銚釣燈籠	丈一尺七寸	目方八百四十目	同

一、鑿
鏡 径一尺三寸 目方二貫百目 壹
鏡 径一尺三寸 鈹 径一尺二寸五分 壹具
リン 径四寸五分 目方二貫五十目

月橋院 曹洞宗 京都市伏見区桃山町泰長老二二〇

(紀伊郡堀内村大字堀内)

【木堂部】

一、本尊釈迦如来坐像 身丈一尺五寸 台坐一尺七寸 菅鉢
一、脇立文殊菩薩坐像 同 六寸 同 一尺二寸 同
一、同普賢菩薩坐像 同 六寸 同 一尺二寸 同
一、銅誕生仏 同
一、正観音菩薩立像 同 三尺五寸 同 三尺 同
一、羅漢木像 十八鉢 平安時代(十
二世紀か) ①※
一、涅槃像 一幅 江戸時代
一、釈迦出山像 一幅
一、十六善神像 一幅
一、大般若 六百卷 十二箱
一、法華經 二部
一、梵網戒經 一卷
一、金剛經 三卷
一、御遣教經 五卷
一、歎仏会式 五卷
一、銅香炉 目方六百五十目 口度四寸五分 一個
一、真鍮花瓶 同 三百六十目 同五寸 高五寸二分 一對
一、鍍燈籠 同 七百目 高一尺六寸 同

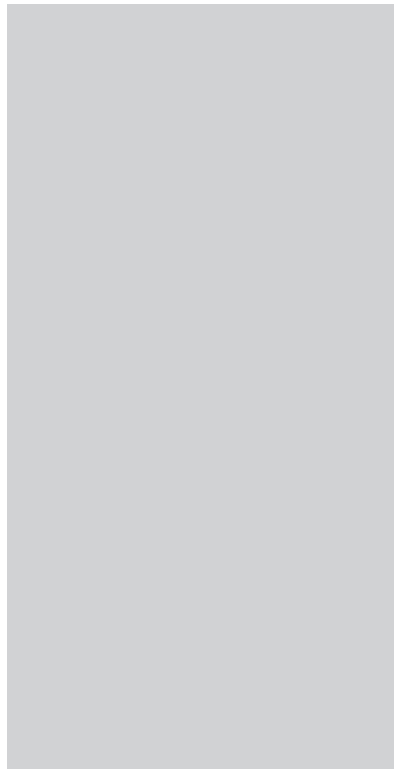
秘仏

一、真鍮蠟燭立 同六十目 口度り二寸 二組
〔記録外〕
一、毘沙門天立像 一軀 平安時代(十二世紀か) ②※

① 聖観音立像 一軀

形 状 左手に蓮茎を持ち、立つ。(挿図13)
保存状態 顔面・胸・両手に修補の痕が多い。

法 量 像高 九〇・五種 髪際高 八一・六種
〔後補〕装身金具、持物、天衣垂下部、両手先、両足先。



(挿図13)

② 毘沙門天立像 一軀

形 状 宝冠を被り、左掌に宝塔を捧じ、右手に戟を持し、邪鬼の上に立つ。

(図9)

品質構造 木造(ヒノキ)。一木造。古色塗。彫眼。

頭・体・邪鬼を通して一材から彫出。左手は宝塔の蓮台と袖の一部を含み一材を肩口で矧ぎ、右手は、袖の一部を含む上膊部を一材から彫出して肩口で矧ぎ、肘先で前膊部材を矧ぐ。

保存状態 〔後補〕宝冠、宝塔の上部、戟、両袖の一部、天衣の垂下部。
法 量 総高 (邪鬼を含む) 一一〇・二種

像高 一〇〇・六種 髪際高 九一・七種

頂一額 二〇・五種 面長 一〇・三種
 面幅 八・一種 面奥 一三・〇種
 耳張 一二・二種 腹厚 一五・五種
 邪鬼高 一七・八種

参考文献 台帳(伏見) 148頁

長園寺 浄土宗 京都市伏見区淀新町六八一

(久世郡淀町大字淀新町)

【宝物仏具】

- 一、本尊阿弥陀仏 立像座光具足 御丈二尺五寸 一軀 江戸時代
- 一、脇立二菩薩 御丈 二軀 江戸時代
- 一、御厨子扉ナシ 惣金 丈七尺五寸 巾五尺 一 江戸時代
- 一、阿祖大師 座像 御長二尺五寸 二軀 江戸時代
- 一、立像弥陀如来 白木厨子入 御丈一尺五寸 一軀 江戸時代
- 一、真鍮香炉 三寸二ツ 合三ツ 三寸五分一ツ 五百目 大小 四ツ 三ツ 一軀
- 一、同 金碗 五百五十目 一 一
- 一、唐金六角香炉 三百五十目 一 一
- 一、唐金花立 五百目 一 一
- 一、同 蠟燭立 五百廿目 一 一
- 一、誕生仏 御長六寸 百廿五文目 一 一
- 一、寿豊山額 一面 一
- 一、鍍鈎燈籠 六角 八廿文目 一 一
- 一、脇立不動尊 御丈一尺五寸ツ、 二 二
- 一、真頭盧尊者 毘沙門天 一 一
- 一、観音小像 御長七寸 台座毫光付 二十五体 一 一
- 一、座像閻魔王 御丈三尺 一 一

一〇七種

【宝物仏具】

[光明寺(廃寺、長園寺に合併)]

- 一、俱生神 同 二尺 二軀 江戸時代
- 一、地藏尊 同丈二尺二寸 一 一
- 一、鎮守弁天 宮殿厨子入 六寸 一ノ百六十目 一 一
- 一、真鍮香炉 六寸 一ノ百六十目 一 一
- 一、同 蠟燭立 堅二尺二寸 二ノ八百目 一 一
- 一、同 花立 口中八寸五分 丈一尺二ノ八百八十目 同 一
- 一、宣徳花立 堅五寸五分 九百目 一 一
- 一、真鍮蠟燭立 丈一尺三寸 六百六十目 同 一
- 一、同 花立 丈六寸二分 七百五十目 同 一
- 一、唐金花立 木花丸木立 五百廿文目 一 一
- 一、唐金台燈籠 高三尺 九ノ五十目 一 一
- 一、鍍水溜 一 一
- 一、釈迦說法画像 一 一
- 一、来迎弥陀仏画像 一 一
- 一、円光大師画像 一 一
- 一、涅槃像 堅一丈 巾九尺 一 一
- 一、本尊阿弥陀如来 御丈一尺九寸 一 一
- 一、観音勢至二菩薩 同一尺四寸 二 二
- 一、誕生仏 百十六文目 一 一
- 一、涅槃画像 一 一
- 一、真鍮蠟燭立 百十八文目 一 一
- 一、銅台燈籠 高二尺六寸 四ノ五百目 一 一
- 一、地藏尊 一 一
- 一、阿大師 御丈六寸 二 二
- 一、薬師仏 八寸五分 一 一
- 一、三部経 一 一
- 一、真鍮香炉 四百五文目 一 一

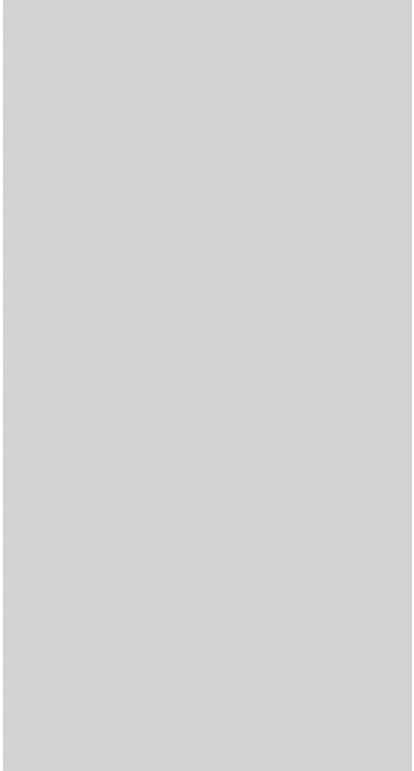
高福寺 浄土宗

京都市伏見区淀新町六八〇

(久世郡淀町大字淀新町)

【宝物仏具】

一、本尊阿弥陀如来	立像 御丈三尺	壹鉢	平安時代 (十二世紀か)	①
一、脇士二菩薩	同 二尺	二鉢	江戸時代	
一、両祖大師	同 二尺五寸	同	江戸時代 (寛文八年)	②
一、地藏尊	厨子入 立像 御丈二尺五寸	壹鉢	鎌倉・南北朝 江戸時代	
一、同脇立	立像一尺五寸	二鉢	江戸時代 (寛文六年)	司録・司命か③
一、地藏尊	座像一尺二寸	壹鉢		
一、千軀地藏尊	小立像		江戸時代	
一、阿弥陀仏	座像丈一尺	一鉢		
一、銅誕生仏	丈八寸 屋形付 三百三十目	同	江戸時代	
一、寶頭盧尊者	座像丈 一尺八寸	同	江戸時代	
一、涅槃画像	竪八尺 横六尺	一軸	江戸時代 (天保十二年)	
一、阿弥陀仏	竪五尺 横三尺	同		
一、銅蠟燭立	高一尺三寸 五百目	一對		
一、同 香炉	高二寸八分 三百七十目	二		



(挿図14)

①阿弥陀如来立像 一軀

法 量 像高 九六・四釐(挿図14)

備 考 「時代」当寺は久安五年(一一四九)創建と伝えるので、本像もその時に造立された可能性がある。

②両祖大師像(善導・法然) 二軀

備 考 「法然像上置座底面墨書銘」

「寛文八年申卯月八日

法然上人 高福寺

七条大仏師定朝法印末葉

西六条天使突稜

大仏師

康雲

③司録・司命像 二軀

備 考 「足柄墨書銘」

「寛文

六年

丙九月日」

「六条

大仏師

康雲

善福寺 浄土真宗

京都市伏見区下鳥羽上三栖

(紀伊郡下鳥羽村)

〔記録外・この項寺院什器簿に記載なし〕

一、薬師如来坐像

一、日光・月光菩薩立像

一、十二神将立像

一軀 平安時代
(九世紀か)

二軀 江戸時代

十二軀 江戸時代

①※

一、不動明王立像 一軀 平安時代 (十二世紀か) ②※
 一、位牌 三基 ③

①薬師如来坐像 一軀

形 状 螺髪(刻出)、白毫(描・後補)をあらわし、大衣・偏衫を着し、右手は施无畏印、左手に薬壺を載せ、結跏趺坐する。(図10)

品質構造 木造。漆箔・彩色。彫眼。

頭体は一材からなる。体の左側部は一材を短ぎ、これに前膊部・手先を寄せる。右側部は肩口・肘・手首で別材を短ぎ付ける。持物は別材製。右腰部と両足部の間に小マチ材を挟む。両足部は裳先を含んで横一材を短ぎ。肉身部漆箔、衣部朱彩とする。

保存状態 「後補」左手第三指頭、右手第三・四・五指頭、薬壺(?)、漆箔。

法 量 像高 八五・五種 髮際高 七三・〇種

頂一顎 二三・七種 面長 一六・四種

面幅 一五・七種 耳張 二一・二種

面奥 二一・七種 肘張 四八・八種

胸厚 二二・〇種 腹厚(衣を含む) 二五・六種

膝張 七二・四種 坐奥 五二・九種

膝高(左) 一五・五種 (右) 一五・五種

備 考 「黒漆塗厨子左扉内側墨書銘」

「明暦二甲歲依奉□□建立從四月八日

薬師令開帳者也并十二神之座御光玉

眼等薬師堂再興仏供料田地三反永

代奉寄進所偏為後生菩提也

明暦二年五月十二日開帳住持沙門重恵」

②不動明王立像 一軀

形 状 総巻髪。左に弁髪をたらし、いわゆる天地眼の相好をあらわす。左手垂下し繩索をとり、右手屈臂して劍を持つ。条帛・裳・腰布を着し、立

つ。(図11)

品質構造 木造。彩色。彫眼。

頭体の根幹部は、左方耳後・右方耳中央の位置で前後に割り短ぎ、三道下で割り首とする。左手は肩で、右手は肩・肘・手首で短ぎ、両足先を短ぎ。肉身は現在白色を呈する。

保存状態 「後補」両耳朶、右手先、持物、臂劍、腕劍、左足先。

法 量 像高 一一二・五種 髮際高 一〇五・四種

頂一顎 一八・五種 面長 一一・二種

面幅 一〇・〇種 耳張 一五・八種

面奥 一六・九種 肘張 五一・五種

胸厚(右) 一六・一種 腹厚(衣を含む) 二〇・九種

裾張 二八・五種

③隠元禪師位牌

「黄檗開山特賜大光普照国師隱老和尚覺位」

木菴位牌

「黄檗第二代賜紫木菴瑠老和尚覺位」

大智禪師位牌

「百丈大智禪師」

法伝寺 浄土宗

京都市伏見区下鳥羽三町六一

(紀伊郡下鳥羽村字下鳥羽)

【宝物仏具之部】

一、本尊阿弥陀仏 木座像 丈二尺五寸

宍鉢 室町時代か

一、同 後光台座 極彩色 丈五尺三寸

宍個

一、唐金台燈籠 口四尺九寸 量四ノ八百八十目

宍対

一、同 円形香炉 口五寸 経四寸 同 六百六十目

宍個

一、同 花立 丈六寸 同 二百八十目

宍対

一、同 誕生仏 同四寸 同八拾目

宍鉢

①※

- 一、善導大師 木座像 後光台座共丈二尺 厨子入 同
- 一、円光大師 右 同
- 一、同 正宗国師 襟掛 木立像 同
- 一、唐金華立 高廿五寸 量二百八十目 尅対
- 一、不退上人 丈一尺八寸 尅躰
- 一、伽羅觀世音 木立像 後光台座共二尺五寸 厨子入 同
- 一、唐金華立 丈二寸五分 量百四十目 尅個
- 一、仏誉上人 木座像 台共丈ヶ老尺 尅躰

①阿弥陀如来坐像 一軀

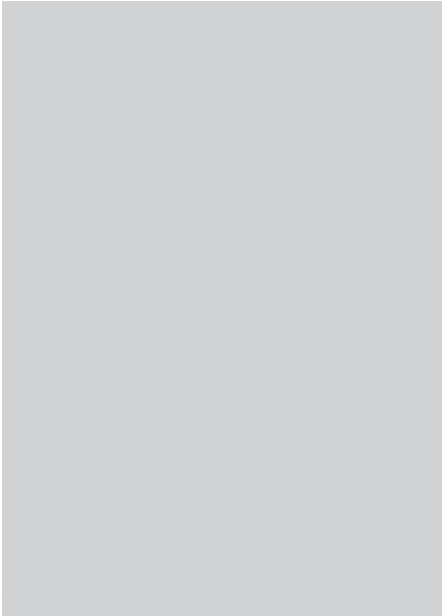
形 状 螺髪(刻出)、肉髻・白毫珠(ともに水晶製)をあらわし、大衣を偏袒

右肩に着け、結跏趺坐する。来迎印を結ぶ。(挿図15)

品 質 木造(ヒノキ)。漆箔。玉眼嵌入。

保存状況 「後補」白毫、左耳朶、両手先。

- 法 量 像高 八八・四種 髮際高 七五・三種
- 頂一顎 二七・九種 面長 一五・七種
- 面幅 一五・四種 耳張 一九・四種
- 面奥 二〇・九種 肘張 五九・八種



(挿図15)

- 胸厚(左) 二一・四種 膝張 六七・九種
- 坐奥 五八・八種
- 膝高(左) 一三・九種 (右) 一四・〇種
- 参考文献 城南388頁

【薬師堂】

- 一、本尊薬師仏 木座像 後光台座共六尺五寸 尅躰
 - 一、四天王 木立像 同 五尺 四体
 - 一、日月天王 木立像 同 二尺五寸 二体
 - 一、十二善神 同 一尺七寸 拾二体
 - 一、千手観音 同 一尺三寸 尅体
 - 一、薬師仏 同 一尺五寸 同
 - 一、宝鏡 尅面
 - 一、唐金花立 丈五寸 量百四十目 尅個
 - 一、真鍮香炉 竪四寸 横五寸 量 同
 - 一、鍔釣燈籠 丈八寸 量九百六十目 尅対
 - 一、寶頭盧尊 丈一尺二寸 尅体
- 〔記録外〕
- 一、不動明王立像
 - 一、地藏菩薩立像

②薬師如来坐像 一軀

形 状 螺髪(植付)、肉髻珠・白毫(ともに水晶製)をあらわし、大衣を偏袒

右肩に着し、右手施無畏印、左手薬壺を持し、右足を外に結跏趺坐す

る。(図12)

品質構造 木造(ヒノキ)。一木造。漆箔。彫眼。

頭体を一材から彫出(両上膊部を含むか)、両足部は横一材を矧ぎ付け、左前膊部は袖先を含んで一材を寄せ、手首先を寄せる。右手は肘先、手

頭部は近世、
体部は平安時
代(十二世紀
か)
江戸時代

※一四一種
※一五五種

平安時代
(九世紀か)
平安時代
(十一世紀か)

②※
③※
日光・月
光菩薩
十二神将

首で短ぐ。後頭部と背中から内割りを施し、像底は約八・五種の厚みで割りのこす。両足部も像底から割り、底板を貼る。

保存状況 「後補」螺髻の一部（地髪部前面に集められる）、肉髻珠、白毫、裳先、両足部の底板、漆箔。

法 量 像高 九一・二種 髮際高 七九・七種

頂一顎 三〇・七種 面長 一七・二種

面幅 一六・八種 耳張 二三・〇種

面奥 二三・三種 肘張 五七・四種

胸厚（右）二七・二種 腹厚（衣を含む）二八・一種

膝張 七七・一種 坐奥 四六・一種

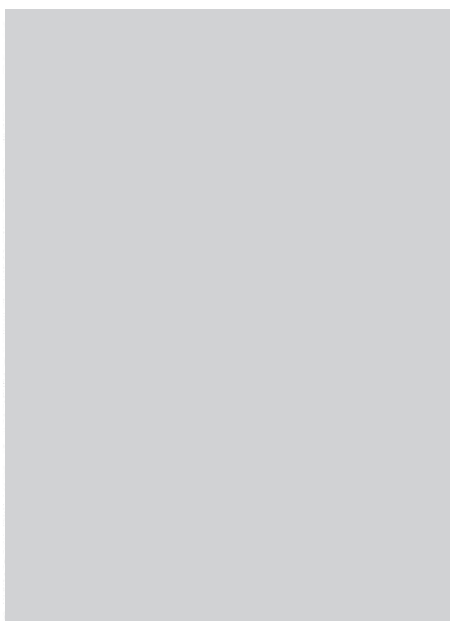
膝高（左）一六・四種 （右）一五・七種

参考文献 城南387頁

③四天王立像 四軀

法 量 持国天 一二〇種 增長天 一〇八種

広目天 一〇九種 多聞天 一一〇種



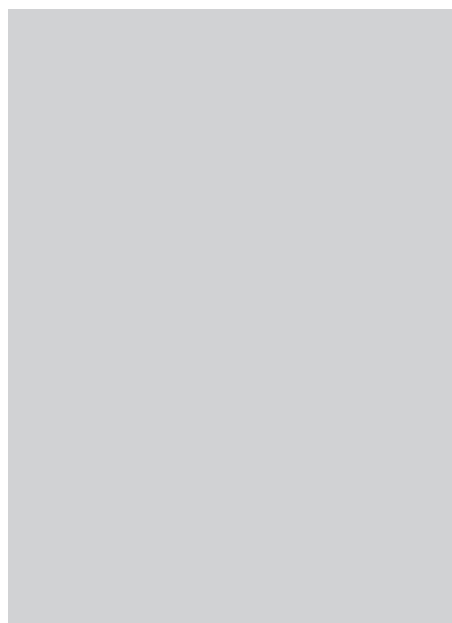
(挿図16-1)

【来迎堂】

一、本尊阿弥陀仏木立像 後光台座共丈五尺四寸

壳体 平安時代
(九世紀か)

④※



(挿図16-2)

④阿弥陀如来立像 一軀

形 状 螺髻（彫出）、肉髻珠（木製）、白毫（水晶製）をあらわし、大衣と偏衫を着して立つ。来迎印を結ぶが、当初の印相がどうかであったかはわからない。（図13）

品質構造 木造（カヤ）。一木造。彫眼。

両手を含み頭体一材から彫出、両手先、両足先を削ぎ付ける。

保存状況 「後補」白毫、両手先、腹前の衣文を塑泥にて盛る部分、両足先。

法 量 像高 一一九・五種 髮際高 一〇〇・五種

頂一顎 二〇・五種 面幅 一一・三種

耳張 一三・四種 面奥 一八・六種

胸厚（右）一九・六種 腹厚 二〇・五種

肘張 三六・八種 裾張 二九・二種

備考 「伝来」もと愛知県犬山市廃専念寺の旧蔵という。現在は薬師堂に安置される。

参考文献 城南388頁、台帳（伏見）1頁

〔記録外〕

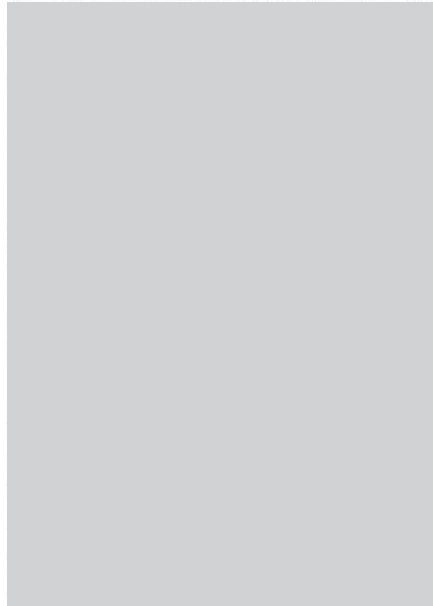
【境内】

一、宝塔

⑤宝塔 一基

一基 室町時代

⑤※



(挿図17)

浄禅寺

浄土宗西山派

京都市南区上鳥羽岩ノ本町九三

(紀伊郡上鳥羽村大字上鳥羽)

【宝物之部】

- 一、本尊阿弥陀如来立像 身丈三尺 沓軀 (平安時代(十二世紀か)) ①※
- 一、脇土観音勢至二菩薩木像 身丈一尺八寸 二軀 江戸時代
- 一、鍔誕生仏 身丈五寸五分 沓軀 江戸時代
- 一、両祖善導大師木像 身丈三尺 二軀 江戸時代
- 一、袈裟姫木像 沓軀 江戸時代
- 一、涅槃画像 紙仕立 沓軸
- 一、曼陀羅画像 同

一、西山国師画像 絹仕立

一、浄禅寺地藏菩薩縁起

一、恋塚由来

【什器之部】

- 一、真鍮花瓶 高五寸五分 沓対
- 一、同 花立 同七寸一分 沓個
- 一、同 蠟燭立 同一尺五寸二分 同
- 一、同 香炉 同二寸六分 同
- 一、三部経 沓部

〔記録外〕

【観音堂】

- 一、十一面観音立像 一軀 平安時代(十世紀か)
- 一、三十三体観音像 三十三軀 江戸時代(明治)

【行者堂】

- 一、役行者坐像 一軀 江戸時代

【地藏堂】

- 一、地藏菩薩立像 一軀 室町時代

【境内】

- 一、石造如来坐像 二軀 鎌倉時代か

①阿弥陀如来立像 一軀

形 状 螺髪(刻出)、肉髻珠・白毫(ともに水晶製)をあらわし、大衣・偏衫を着け、来迎印を結んで立つ。(図14)

品質構造 木造。漆箔。彫眼。

頭体の根幹部は、左耳後と右耳中央の位置で前後に割削ぎ、頸部三道下で割り首とする。体部の左右両脇に各一材を寄せ、両手首・両足先を矧ぎ付ける。

保存状態 (後補)肉髻、白毫、両袖先下方、足柄、肉身表面のすべて。

法 量 像高 九八・九種 髪際高 九一・三種

肘張 二八・六種 腹厚 一三・七種

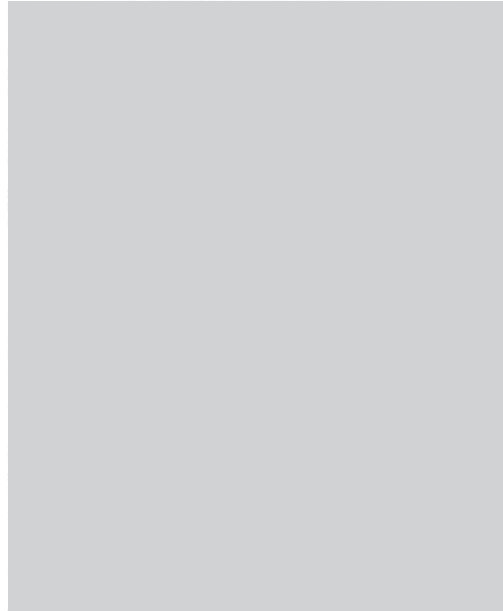
②袈裟御前坐像 一軀

形状 (省略・挿図18)

品質構造 木造。寄木造。彩色。玉眼嵌入。

羽織は、黒色地にやり霞、花亀甲繫ぎ、麻葉繫ぎ、などの千代紙式文様、着物は、朱地に花唐草文が認められる。

法量 像高 三五・四種



(挿図18)

③十一面観音立像 一軀

形状 頭上に十一面を頂き、白毫(水晶製)をあらわし、条帛・裳を着し、天衣を懸ける。左手に水瓶を執り、右手と願印をあらわして立つ。(図15)

品質構造 木造。一木造。漆箔。彫眼。

頭体は、左手肘および右手首までを含んで一材より彫出。左手肘、手首、右手首で短ぐ。内割りなし。

保存状態 (後補) 頂上面以外の頭上面のすべて、宝冠、冠帯、持物、両手先、天

衣垂下部、裾部全体、両足先。

法量 像高 一七三・五種 髪際高 一四二・二種

頂一顎 三五・二種 面長 一六・一種

面幅 一五・一種 面奥 二二・一種

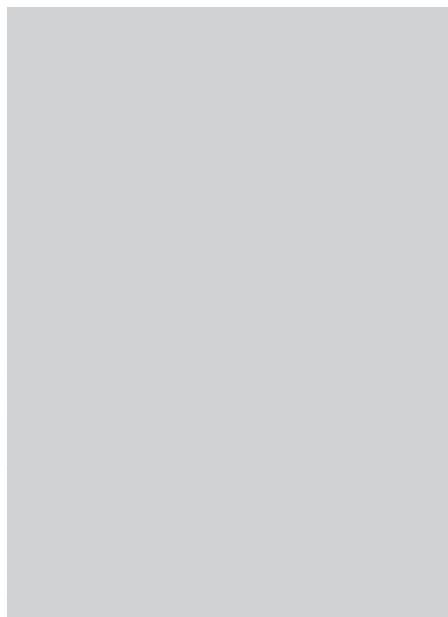
耳張 二〇・九種 胸厚(右) 二一・二種

腹厚 二三・〇種 肘張 四三・六種

参考文献 城南374頁、台帳(下京7) 8頁

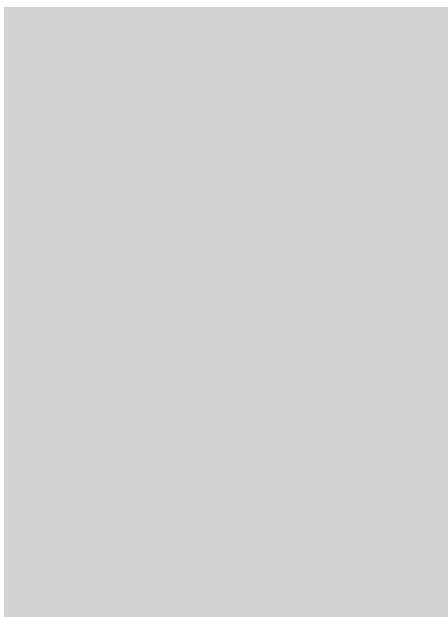
④石像如来坐像(その二) 一軀

参考文献 城南375頁



(挿図19)

石造如来坐像(その二) 一軀



(挿図20)

大蓮寺 浄土宗 京都市左京区新高倉通仁王門上ル正往寺

(常念寺に合併) 町四五七の一

(京都市下京区毘沙門町)

【宝物之部】

一、本尊阿弥陀如来	木仏立像	慈覚大師作	平安時代 (十二世紀か)	①※
金色身長四尺二寸	台共仮厨子入			
一、脇立千手観世音	木仏立像	身長二尺二寸	同	江戸時代
一、同 不動明王	同	同	同	江戸時代
一、薬師如来	木仏立像	身長六尺	伝教大師作	平安時代 (十一世紀か)
一、同 脇立十二将神	木仏立像	身長二尺六寸	十二体	江戸時代 (寛政三年)
一、薬師見生仏	木仏立像	身長二尺	宍倉	②※
一、地藏大士	同	同	五尺六寸	同
一、十一面観世音	同	同	五尺六寸	同
一、日光仏	同	同	式尺三寸	同
一、月光仏	同	同	二尺三寸	同
一、青面金剛神	同	同	三尺五寸	同
一、阿弥陀如来	同	同	二尺	同
一、仏舍利	年号不明	有栖川一品中務卿御簾中御寄附	七粒	同
一、弥陀経	右同		宍倉	④※
一、念珠	右同		宍倉	
一、白髪縫織六字名号	同	本覚院御寄附	宍倉	
一、自詠和歌係物	同	有栖川職仁親王御寄附	宍倉	
一、同	同	中務卿宮職仁親王御寄附	同	
一、墨絵龍虎係物			式幅	
一、薬師如来御正鉢			一面	⑤
一、朱塗勾欄			二基	⑥※

①薬師如来立像 一編

形 状 螺髪(刻出)、肉髻珠(木製)、白毫(水晶製)をあらわし、左肩より大衣、右肩に偏衫、下半身に裳をそれぞれ着ける。左手は軽く肘を屈けて掌上に薬壺を載せ、右手は肘を屈げ掌を前にして立て五指を伸ばす。両足を揃えて立つ。(図16)

品質構造

木造(ヒノキ)。漆箔。彫眼。
頭体の主部は縦木一材を用い、左方耳、右方耳後の位置で前後に割り矧ぎ、さらに三道下で上下に割り矧ぐ。体部前面は正中よりやや右寄りで左右に割り矧ぎ、両肩および裾の側面・底部にはマチ材(幅三・二〜三・五種)を挿んで体部の厚みを増している。両肩下りから袖先までは左右各一材を矧ぎ寄せ、全体に大きく内割りを施す。両手首先、両足先ともに別材矧ぎ寄せ。

漆箔、彩色はほとんど剝落して一見素木像のようにみえるが、当初は肉身部漆箔(眼、耳、右手指、右袖内の前膊部などに残る)、衣は全面布張りの上に表朱(推定)、裏白緑(白緑地につけて朱点の文様)にあらわし、螺髪に緑青を施していたらしい。

保存状況

表面の漆箔、彩色の剝落を除き、木部の保存状況はかなり良好である。
〔後補〕白毫、左耳朶、左手第四指の半ばより先、右手第一指の付け根を含むすべて、同第四指の半ばより先、右袖内側、左足第五指、右足先のすべて、右腰下の埋木、薬壺。

〔欠失〕左手第一指の外側、同第二、三、四指の半ばより先、右手第五指先、裾先の一部。足柄の下端は切断されて短かくなっている。現在、荷葉の上に置かれた敷茄子上に柄孔を切り、不安定な状態で納立ちする。

法 量

像高	一九三・五種	髮際高	一七八・四種
頭長	三四・四種	面長	一九・一種
面幅	一九・九種	耳張	二四・八種
面奥	二五・三種	肘張	六六・二種
裾張(現状)	四三・四種	胸厚(左)	二四・〇種

腹厚(衣を含む) 三二・六種 足柄(現状・左) 高 六・三種
足柄(右) 高 六・二種

伝 来 もと祇園社感神院の本地薬師如来像として、本社西隣りに南面してあつた観慶寺薬師堂に祀られていたと伝えられるもので、明治初年の神仏分離の際して大蓮寺に移された。大蓮寺は昭和二十年戦時下の強制疎開でとりこわされ、現在の常念寺に合併された。

明治初年の火事(俗に稲荷焼けと称され、下京区の半分が焼けたという)で、大蓮寺も類焼の災を蒙つたが、薬師仏は取り出され、厨子はその後新造された。昭和二十年までは秘仏としてこの厨子内に奉安されていたという。

参考文献 京都市文化観光資源調査会報告書(一九七七)(京都市文化観光局 昭和五四年) 1-4頁

②十二神将立像 十二軀

形 状 (省略・挿図21)

品 質 木造(ヒノキ)。寄木造。彩色。玉眼嵌入。

法 量 西神 像高 六七・四種

伝 来 もと観慶寺須弥壇上に安置。

備 考 「西神像内背面墨書銘」



仏師

寛政三年九月七日

願主

参考文献 京都市文化観光資源調査会報告書(一九七七) 6頁

③十一面観音立像 一軀

形 状 髪の周りに一段に化仏と頭上面を配する十一面観音立像。(図17)

品質構造 木造(カヤ)。もと彩色か素木か不明。彫眼。

頭体および右上膊の一部を含めて一材より彫成。内割なし。

保存状況 「後補」化仏、頭上面のすべて、左手の肩より先、右上膊前半部を除くすべて、両足先、胸飾(木製)、白毫。

(挿図21・12軀のうち)

〔欠失〕頂上面、天衣垂下部。

法 量 像高 一六五・〇㎝

伝 来 大蓮寺に古くから伝来したものか、あるいは観慶寺関係遺仏かはっきりしないが、おそらく後者と思われる。

参考文献 京都市文化観光資源調査会報告（一九七七）5頁

④伝青面金剛立像 一軀

形 状 頂にとぐるを巻く蛇をいただき、焰髪、三眼四臂、髑髏の胸飾りと絡龍

の帯とをそれぞれ着ける。手足の各二箇所は釧風に蛇が巻き、左第一手には長棒、右第一手には金剛輪を執る。条帛をかけ、獣皮の裳と腰布をつけ、邪鬼の上に立つ。（挿図22）

品 質 木造。寄木造。彩色。玉眼嵌入。

保存状況 〔後補〕宝冠金具。

〔欠失〕右第二手前膊、腰の龍頭二。

法 量 像高 九七・〇㎝

伝 来 旧観慶寺諸仏中の一。

備 考 近世の諸書に「夜叉神」（坐像とするは誤か）と記するものに当ると思

われ、形象上の不思議な点については、『洛陽十二社靈驗記』に詳しく。『寺院什器簿』にしたがって標記の尊名とした。

参考文献 京都市文化観光資源調査会報告（一九七七）7頁

⑤薬師如来御正鉢 一面

法 量 直径 七一・五㎝

伝 来 もと秘仏本尊の厨子に前立像と同様の意味で奉懸されていたもの。

備 考 〔覆輪側面刻銘〕

（左方）

「奉寄進薬師如来御正鉢 家内長久諸病平愈

所願成就所」

（右方）

「元禄六癸三月吉日 願主 岸井藤原氏」

参考文献 京都市文化観光資源調査会報告書（一九七七）8頁

⑥朱塗勾欄 二基

形 状 須弥壇の前方左右端におかれる朱塗塗勾欄で、唐草の毛彫を施した金銅

金具（冠金具、辻金具、八双金具）を要所に打つ。八双金具の木口には菊花文を配し、中央寄りの下段と中段には魚々子と毛彫りによる五葉木瓜文の紋金具（現在の八坂神社の定紋）を配する。（挿図23）

法 量 各 左右 九四・八㎝

前後 六九・三㎝

高さ（東の位置で） 三〇・九㎝

備 考 五葉木瓜文は現在も八坂神社で用いられている定紋で、この勾欄の存在

は、薬師如来立像以下の諸仏が観慶寺の旧仏であることを端的に物語る。

参考文献 京都市文化観光資源調査会報告書（一九七七）9頁

【什物之部】

一、鎮鎌花立 高七寸三分 百三十八匁 尅

一、同蠟燭立 高一尺八寸 五百八十匁 尅本

一、同香炉 同三寸五分 二百三十五匁 尅

一、宣徳花立 差口二寸六分 百匁 尅対

一、同 蠟燭立 高一尺八寸 三百五十匁 同

一、同 香炉 差口三寸七分 高三寸五分 八百七十匁 尅

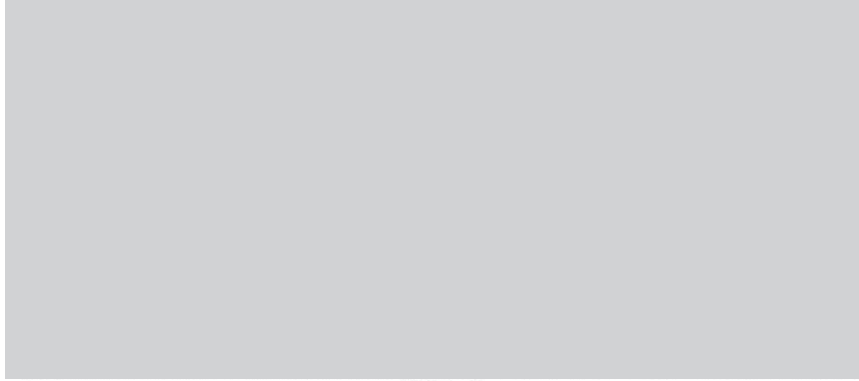
（挿図22）

一、真鍮蓮花香炉 差口七寸 高六寸六分

卷

一ノ三百二十目

一、同 柄香炉 長一尺一寸 高三寸 百二十目 卷



(挿図23)

学 叢 第二号

昭和五十五年三月三十一日発行

編集発行 京都国立博物館

京都市東山区茶屋町五二七

印刷 日本写真印刷株式会社

京都市中京区壬生花井町三

(出版協力) 社団法人清風会